

---

# 遊戯王 Eternal Bonds

Astaroth8560

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

遊戯王 Eternal Bonds

### 【Nコード】

N6409Z

### 【作者名】

Astaroth8560

### 【あらすじ】

とある街で日常的に楽しくデュエルしている  
ペンギンモンスター使い 天銀 遊泳。  
ある出来事から彼の本当の人生が始まる。

## 登場主要人物紹介（第4話まで）

登場主要人物紹介（第4話まで）

てんぎん  
天銀 遊泳

年齢 15  
性別 男

髪型：茶髪で右目に垂れていて、  
左半分の髪が一部立っている。  
目の色は青。

誕生日 1月10日

：料理はだめ、勉強は論外、だがデュエルの腕前は  
人一倍あり、デュエルを愛する少年。  
過去に大きな事故に遭い、両親を失い、今は親友カインとともに  
生活している。事故の詳細については本人はほとんど覚えていな  
い……。

今はデュエルアカデミアのデュエル部に入部しており、  
授業はデュエル関連の授業のみに出席することに。  
そして、遊泳の寮にはあの裂夜とともにいることになる。

彼が使うデッキはペンギンデッキ。  
動物の中でペンギンが一番好きだからという単純な理由で使っ  
ている。

本人にとっては、このデッキを使いこなせるのは自分だけのよう

だ。

カイン

年齢 16

性別 男

髪型：赤色で髪が一部立っている。  
目の色は赤。

誕生日 9月16日

：昔からの遊泳の親友。過去に起きた事故で遊泳を救い、  
今は二人で生活している。

現在は遊泳とは兄弟のような関係にもなっている。

苦労しながらも、これから遊泳の面倒を見続けていく。

が、遊泳はデュエルアカデミアの寮に住むことになったので  
そこまで苦労することはないだろう。

彼もデュエルをするようだが、

自慢できるようなデッキが無いという理由で

遊泳との対戦経験が全くない。

鉄くろがね  
里士さとし

年齢 15

性別 男

髪型：黒色で垂れている。  
目の色は茶色。

誕生日 8月1日

：デュエルアカデミアの生徒。  
デュエルの才能が人一倍の遊泳を当校に誘うため、  
遊泳にデュエルを申し込む。  
これにより遊泳の本当の人生が始まる・・・。

彼の使用するデッキは地属性。  
本人にとってはあまり自信がないらしい。

覇道<sup>はどう</sup> 裂夜<sup>れつや</sup>

年齢 18

性別 男

髪型：肩までの長い髪で空色。  
目の色は赤で左目には傷がある。

誕生日 4月2日

：デュエルアカデミアの生徒。  
彼の詳細は不明だが、デュエルの腕は相当なもの。  
学園内で唯一の左利きである。  
使用デッキは闇属性中心のパワーデッキ。

空野<sup>そらの</sup> 天子<sup>てんこ</sup>

年齢 15

性別 女

髪型：ロングヘアーでとても明るい黄色。  
目の色は黄色。

誕生日 8月1日

：デュエルアカデミアの生徒。

デュエルバカで有名な遊泳のことが気になっている様子。  
彼女もデュエルバカの一人だとか・・・。

使用デッキは天使族。 エースは ヘブンズ・アスタロート

Mr・K

年齢 (おっと、プライバシー保護ですよ。 By Mr・K)  
性別 男

髪型：白髪。 一部立っていて両目に垂れ下がっている。  
左目しかよく見えないくらい。

誕生日 1月17日

・デュエルアカデミアの教頭。

鉄の提案により、遊泳をデュエル部に誘うように鉄を  
遊泳の元へと派遣した。

オカルト話が大好きで、その恐ろしさが  
何人もの生徒を気絶させてしまう。

使用デッキはアンデット族デッキ。

エースは イモータル・デス・ソーサラー

Mr・W

年齢 26

性別 男

髪型：水色で大好きブルーノちゃんと似たような髪形。  
目の色は水色。

誕生日 9月9日

・デュエルアカデミアの生物学の教師。

遊泳と同様にデュエルバカで、

授業中でもデュエルのことを考えて、

生徒に教えることを忘れてしまうことがある。

使用デッキは水属性だが、

裂夜に一瞬でボコられたので詳細は不明。

## TURN 01「新たな伝説の幕開け」

遊戯王 Eternal Bonds

### TURN 01「新たな伝説の幕開け」

遊泳「行け！ ペンギン・ウォリアー！ダイレクトアタック  
！！」

対戦相手「ぬぐああああ！！」

対戦相手 LP 800 0

WIN Yuei

今、俺は街の噴水広場でデュエル中だった。

結果は俺がノーダメージで圧勝だった。うむ、俺のペンギン達は  
いつも輝いている！

ああそつだ・・・紹介がまだだった・・・。

俺の名は 天銀てんぎん 遊泳ゆうえい・・・ペンギンモンスター使いのデュエ  
リストさ。

今は時代の変化に伴い、ペンギンモンスターが増えてきた。



もちろん俺のデッキには、 ペンギン・ソルジャー や 大皇帝  
ペンギン も入っている。

俺がペンギンモンスターを使う理由としては・・・  
単純に動物の中でペンギンが一番好きだから。うん、それだけ。

このときの俺はただ純粹にデュエルを楽しむ生活をしているだけ。  
。。。

この後俺は・・・俺の本当の人生が始まる出来事が起きた・・・。

〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓 オープニング〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓

今は召喚システムはシンクロとエクシーズ、融合、儀式。  
これといって新しい召喚方法は生み出されていない。

今でもガチカードを使う人は多い。

俺はそんなカードは持っていると言えは持っているがほんの僅か。  
でも俺は今のこのデッキが好きだ・・・だからあまりデッキは変  
えたりはしない・・・。

ん？俺が普段どんな生活を送っているのかつて？  
聞いて驚くなよ？俺の日常生活はな・・・。

〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓  
〓〓〓〓〓〓〓〓〓〓

これは昼飯前のときの風景だ。

？「おい遊泳。少しは昼飯作るの手伝ってくれよ・・・。」

遊泳「えゝだつて俺料理下手だし料理めんどくさいしコンビニで買えばいいし。」

俺はこの通り、料理は苦手。というよりやり方はほとんど知らず、手伝うことくらいしかしない。

コンビニで弁当買いに行くほうがよっぽど楽だ。

？「お前なあ．．．じゃあ、ゴミの日にお前のペンギンカードを出していいか？」

遊泳「ははっ！カイン様っ！すぐに昼飯のご用意を致しますっ！カイン様は椅子にお掛けになってくださいっ！」

カイン「はは．．．やれやれだぜ．．．ていうかカイン様とか言うな。水臭い。」

遊泳「まあ、いつものことだからわかつてると思うけどよ．．．俺の料理．．．あまり期待しないほうがいいぜ？」

カイン「いいや、いくらお前の料理が激不味でも真心が込められてたらそれでいいさ。」

遊泳「褒めてるのか貶してるのか．．．。」

さすがに俺の大切な大切なカードを人質（？）にされたらこれは従うしかない。

俺の元気の源を捨てられたら俺は恐らくショック死しそうだ。

ま、俺はこの通りのんびりとした生活をしているのさ。

今はちょうど昼飯の時間で次のデュエルに向けての補給タイム。  
ちなみに、俺の基本的な日程は以下の通り。

6時 デッキ調整  
7時 朝飯  
8時 デュエル  
12時 昼飯  
13時 デュエル  
19時 晩飯  
20時 フリータイム  
21時 就寝・・・と見せかけて深夜アニメ視聴へ向けて起きる  
22時 カインにボコられ、結局は寝る  
23時 ベッドに入り、二人で寄り添いあい・・・

というわけだ・・・。

カイン「こら最後ちよつと待て。誤解を招くようなこと言っんじやねえよ。」

しかもいつから日程がデュエルオンパレードになったんだよ!」

遊泳「悪い悪い。これはもちろん冗談だ。俺ん家にベッドはなく、布団だけだ。」

カイン「まったく・・・飯のときに変なこというなよな・・・。」

まあ、こんな風に俺とカインは仲良く暮らしている。  
ちなみにカインっていう奴は俺の親友だ。  
過去に起きた事故のときに、俺を助けてくれた・・・。



遊泳「さあ、デュエルだっ！誰か俺を満足させてくれよ！！」

？「あのゝ．．．。」

家から出ると、突然男の声がした。

遊泳「おうっ！ナニカナナニカナ？デュエルなら大歓迎だぜ！」

俺は目を人一倍輝かせてその人に近づく。

おっと、思わずキスしかけ．．．いや何でもない。

？「わわっ！ビックリさせないでくれよ．．．。」

カイン「なあ遊泳。少しは落ち着いたらどうだ？」

遊泳「だってこいつデュエルしに来たんだろ？落ち着いてる暇な  
んかないぜ！」

？（．．．なるほど．．．あの人の言うとおり、デュエル好きか．  
．．。

．．。  
誘う前にこいつがどれほどの腕か．．．俺が試して見るか．  
．。  
）

？「よし！早速だけど、俺とデュエルしようぜ！」

遊泳「ああ！」

鉄「俺の名は　鉄くろがね　里士さとし　だ。よろしくな！」

遊泳「ああ、俺は天銀てんぎん　遊泳ゆうえい　だ。

「それじゃあ、早速噴水広場に行こうぜ！」

俺はデュエルするときはいつも噴水広場へ行くんだ。

俺の一番のお気に入りの場所……

ここでデュエルするのが俺の至福の時間だ。

こうしてカインが見守る中、いつもの噴水広場でデュエルが始まる。

そういえば俺って・・・デュエルバカというあだ名で有名になっ  
てるんだっ たな・・・。

料理はだめ、勉強は論外、だがスポーツやデュエルは（一応）並外れの腕前だ。

デュエルなしじゃ生きていけない！それがこの俺、天銀 遊泳だ！  
そんな俺でもやるときはやる男だ！覚えておいてくれ！

「遊泳、それじゃあいくぜ！」

鉄「……言っておくけど、俺はそんなに強くは無いぜ？」

遊泳「そうか？じゃあ楽勝だな！はーっはっはっはっはっはっはっ！」

カイン「こっ……こいつ……最悪だ……！」

自信なさげな鉄に対する遊泳の挑発的な言葉に呆れるカイン。

鉄「それでは……！」

遊泳、鉄「デュエル！」



鉄           LP   4000  
遊泳       LP   4000

鉄「それじゃあ、先攻は俺が貰うぜ！ドロー！

巨大ネズミ を召喚！」

ATK   1400   LV   4（ちなみに効果音はZEXAL  
仕様）

鉄「カードを1枚伏せてターンエンド！」

遊泳（・・・地属性デッキか・・・？）

「俺のターン！ドロー！」

遊泳はじっくり手札を眺め、最初の一手を考える。

遊泳「ペンギン・リクルーター を召喚！」

ATK   1300   LV   3

遊泳「さらに魔法カード アクア・ジェット を発動！

水族・魚族・海竜族モンスター1体の攻撃力を1000ポ  
イントアップ！

こいつで ペンギン・リクルーター の攻撃力が1000  
ポイントアップする！」

ATK   1300   +1000   =   2300

遊泳「バトル！ 巨大ネズミ を攻撃だ！」



ペンギン・リクルーター から強烈な水鉄砲が放たれ、 巨大  
ネズミ を倒す。

敗れたモンスターは光となって散る。

鉄「わお・・・なかなかやるね・・・」

攻撃力2300対1400・・・その差の900ポイントが  
俺のダメージとなる。」

鉄 LP 4000 - 900 〓 3100

遊泳「どうだ！これが俺のマジックコンボ（笑）だ！」

鉄「だが、 巨大ネズミ の効果が発動！戦闘で破壊され墓地  
へ行ったとき、

デッキから攻撃力1500以下の地属性モンスター1体を攻  
撃表示で特殊召喚できる！

俺が呼ぶのは ナチュル・チェリー だ！」

ATK 200 LV 1

遊泳（チューナーモンスターか・・・！

次のターンにシンクロ召喚するつもりか・・・なら・・・

！

カードを1枚伏せてターンエンドだ！」

遊泳はチューナーモンスターを相手が召喚した場合、よく警戒す  
る。

強力なシンクロモンスターを出してくるからである。

鉄「ふっ・・・俺のターン・・・」

ゴブリンエリート部隊 を召喚！」

ATK 2200 LV 4

鉄「レベル4の ゴブリンエリート部隊 に

レベル1の ナチュル・チェリー をチューニング！シンク  
口召喚！

いでよ！ ナチュル・ビースト ！」

ATK 2200 LV 5

遊泳「だが攻撃力は2200・・・まだ俺のモンスターのほう  
が攻撃力が上！」

鉄「焦るなつて・・・装備魔法 団結の力 ！」

俺の場の表側表示モンスター1体につき800ポイント、  
装備モンスターの攻撃力・守備力がアップする！」

ATK 2200 +800 〓 3000

カイン「攻撃力3000だと!？」

いとも簡単に 巨大ネズミ を倒させたのもこれが狙いだつたこ  
とに気づくカイン。

これにより強力なモンスターが召喚されたことに動揺を隠せない  
様子だつた。

鉄「さらに ジャンク・アタック を装備！

戦闘でモンスターを破壊し、墓地へ送つたとき、  
そのモンスターの攻撃力の半分のダメージを相手に与える！」

遊泳「く・・・！」

鉄「バトル！ ナチュル・ビースト で ペンギン・リクルータ  
ー を攻撃！」

遊泳「させるかよ！トラップ発動！ ポセイドン・ウェーブ！  
モンスターの攻撃を無効にし、さらに俺の場の  
水族・魚族・海竜族モンスターの数×800ポイントのダ  
メージを相手に与える！」

鉄「ほう・・・そうきたか・・・だがそう簡単にはいかないぜ？」

遊泳「・・・！」

鉄「カウンタートラップ ギャクタン！  
罠カードの発動を無効にし、そのカードを表向きでデッキに  
戻す。

そしてそのカードを相手がドロウするまで、相手は同名カー  
ドを発動できない！」

遊泳「なにっ！？」

鉄「バトルは続行され、お前はバトルで700ポイント・・・  
ジャンク・アタック の効果で650ポイント・・・  
合計1350ポイントのダメージを受けてもらっぜ！」

遊泳「どわあっ！」

遊泳    L P    4 0 0 0    - 7 0 0    - 6 5 0    "    2 6 5 0

遊泳「だがこの瞬間、ペンギン・リクルター の効果発動！  
戦闘で破壊されたとき、デッキからレベル4以下のペンギ  
ンモンスター1体を

特殊召喚できる！現れる！ペンギン・アーチャー ！！」

ATK 1400 LV 4

鉄「・・・カードを1枚伏せてターンエンド・・・。」

鉄 LP 3100

遊泳 LP 2650

遊泳「俺のターン！

2枚目の アクア・ジェット を発動！攻撃力を1000  
ポイントアップだ！」

鉄「無駄だ！ ナチュル・ビースト の効果発動！

デッキの上からカードを2枚墓地へ送り、魔法カードの発動  
を無効にして破壊することができる！」

パリーーン！

カードが破壊されたときに鳴る効果音だ。

響き渡るこの効果音は、キーカードの発動を無効にされ、  
ショックを受けた遊泳の心を表しているとも言っているだろう。

遊泳「デッキのカードを2枚墓地へ送るだけで魔法カードを封じ  
るだ・・・！？

インチキ効果もいい加減にしる!!」

鉄「さあ、どうした?もう打つ手は無いのか?」

遊泳「く・・・ペンギン・アーチャー を守備表示に変更・・・  
そしてモンスター効果。1ターンに1度、手札のペンギン  
モンスターを

2体まで捨て、このカードの攻撃力を  
エンドフェイズまで捨てた枚数×300ポイントアップす  
る!」

遊泳は ペンギン・ブースター を捨てる。

遊泳「カードを2枚伏せてターンエンドだ。」

DEF 1000

鉄「苦し紛れにモンスターを捨てたか。さすがにお前も焦っているな。」

遊泳「・・・。」

鉄「じゃ、俺のターンだ!」

遊泳（やばい・・・魔法カードを封じられたのなら・・・  
俺に勝機は無いかもしれない・・・だが諦めるわけにはい  
かねえ!）

鉄「2体目の 巨大ネズミ を召喚!」

ATK 1400 LV 4

ナチュル・ビースト    A T K    3 0 0 0    + 8 0 0    ≡ 3 8 0 0

鉄「さらにフィールド魔法    ガイアパワー    を発動！

地属性モンスターの攻撃力を500ポイントアップし、

守備力は400ポイントダウンする。」

巨大ネズミ                    A T K    1 4 0 0    + 5 0 0    ≡ 1 9 0 0

ナチュル・ビースト    A T K    3 8 0 0    + 5 0 0    ≡ 4 3 0 0

遊泳「こ・・・これはやりすぎでは・・・ない・・・か・・・？」

魔法カードを封じる凶悪なモンスターをそう簡単に倒させてくれない・・・

遊泳の闘志は消えかかっていく。

鉄「さあいくぞ！    巨大ネズミ    で    ペンギン・アーチャー    を  
攻撃！」

カイン（この攻撃を受けて    ナチュル・ビースト    の  
ダイレクトアタックを受けたら遊泳の負けか・・・。）

遊泳「トラップ発動！    ペンギン・ガード    ！

ペンギンモンスターが攻撃対象になったとき、

デッキからレベル4以下で守備力2000以下のペンギン  
モンスター1体を墓地へ送り、

その守備力分、対象モンスターの守備力をアップする！

ペンギン・ガードナー    を墓地へ送る！」

ペンギン・ガードナー    D E F    1 9 0 0

DEF 1000 +1900 ≡ 2900

鉄「うおっ！守備力を上げてきたか！」

鉄 LP 3100 -1000 ≡ 2100

遊泳「さらに、このカードの発動時、相手に戦闘ダメージを与えたとき、

攻撃モンスターを破壊する！」

鉄「ほう……。」

これなら直接攻撃での大ダメージはない。遊泳は心の中でホッとした。

鉄「だが ナチュル・ビースト の攻撃が残っている！

ナチュル・ビースト で攻撃！！」

遊泳「…… ペンギン・アーチャー の攻撃力は1400……  
その半分の700のダメージを受けるのか……。」

遊泳 LP 2650 -700 ≡ 1950

ジャンク・アタック の効果を受けたものの、  
なんとかライフを多く保つことができたと安心する遊泳。

鉄「悪いが、まだ俺のバトルフェイズは終了してないぜ！

永続トラップ リビングデッドの呼び声 ! 墓地のモンスター  
Iを

攻撃表示で特殊召喚する！」

巨大ネズミ    A T K    1 4 0 0    + 5 0 0    ≡ 1 9 0 0

遊泳「んなっ!？」

鉄「ダイレクトアタックだ!」

遊泳「ぐわっ!」

立体映像だとわかっていても、その凄まじい迫力で本当にダメージが通っているような感じだった。

遊泳    L P    1 9 5 0    - 1 9 0 0    ≡ 5 0

遊泳「げっ!もう俺のライフがほとんど残ってねえ!」

カイン「おい何やってんだよ!デュエルチャンピオン目指してるんじゃないのかよ!」

遊泳「んなこと言われても・・・魔法カードも封じられているの  
に・・・」

しかもライフが残り50・・・どうすればいいんだ・・・。

┐

鉄「ターンエンド・・・天銀    遊泳・・・それほど  
大した相手ではなかったな・・・。」

鉄    L P    2 1 0 0

遊泳    L P    5 0



遊泳「・・・この状況を何とかするカードが来れば・・・

俺だつてやるときはやるさ……。まずはカードを引くんだ！」

俺のターーーーン!!!!」

この遊泳の声が響き渡る。(一応近所迷惑にならない程度)

遊泳「・・・来た・・・!」

鉄「ん？」

遊泳「チューナーモンスター チューン・ペンギン を召喚!」

ATK 500 LV 3

遊泳「このカードが召喚に成功したとき、

墓地のレベル3以下のペンギンモンスター1体を特殊召喚できる!

ペンギン・リクルーター を特殊召喚!」

ATK 1300 LV 3

遊泳「さらに、この効果で特殊召喚したモンスターのレベルを1つ下げることができる!

レベル2 ペンギン・リクルーター に、レベル3 チューン・ペンギン を

チューニング!!」

鉄「こ・・・この状況でシンクロ召喚だと!?」

遊泳「遙か彼方の大地の戦士よ・・・正義の叫びとともにその姿を現せ！」

シンクロ召喚！現れる！ペンギン・ウォリアー！！」

戦士の鎧を身に着けた巨大なペンギンが現れる。

ATK 1900 LV 5

このモンスターは遊泳の主力モンスター。

シンクロ召喚に成功するといつも遊泳はうれしそうな顔をする。

遊泳「このカードの攻撃力は、

俺の場のペンギンモンスターの数×200ポイントアップ

する！」

ATK 1900 +200 ≡ 2100

遊泳「トラップ発動！ペンギン・オーバードライブ！

自分フィールドのモンスターがペンギンモンスター1体のみの場合に発動できる！

そのモンスターの攻撃力を1000ポイントアップし、

このターン、選択したモンスターだけが攻撃可能になり、

相手フィールドのモンスターすべてに1回ずつ攻撃できる

！」

鉄「なにっ!？」

ATK 2100 +1000 ≡ 3100

遊泳「いくぜ！バトルだ！ ペンギン・ウォリアー で 巨大ネズミを攻撃！」

誇り高き戦士のようなペンギンの凄まじい一撃が巨大ネズミを襲う。

鉄「うおっ！？」

鉄 LP 2100 - 1200 ≡ 900

鉄「俺は 巨大ネズミ の効果は使用しない。  
奴の連続攻撃を喰らうからな……。」

遊泳「……。」

鉄「それに、モンスターが減ったことにより、  
ナチュル・ビースト の攻撃力が下がるが、  
それでも十分な攻撃力を保っている！」

ATK 3500

鉄「お前のモンスターの攻撃力じゃあ、  
俺のモンスターは倒せない！しかも、エンドフェイズには  
お前のモンスターはゲームから除外される！  
これでお前の場はがら空き！次のターンで終わりだ！」

遊泳「ふっ……それはどうかな？」

鉄「なに……？」

遊泳「あの時、何で ペンギン・アーチャー の効果で  
わざわざ手札を捨てたと思う？」

鉄「な・・・ま・・・まさか・・・！？」

遊泳「そう・・・俺のキーカードは・・・墓地にあつてこそ発動  
する

ペンギン・ブースター さ！」

そう。遊泳の真の狙いはわざと手札を墓地へ捨て、効果を発動する  
ため。

鉄は驚きを隠しきれない表情だ。

遊泳「自分のペンギンモンスターが戦闘で相手モンスターを破壊  
したとき、

このカードをゲームから除外することで、そのペンギンモ  
ンスターの

攻撃力をエンドフェイズまで倒したモンスターの攻撃力分  
アップさせるのさ！」

鉄「ぐっ・・・！」

カイン「そうか！ ペンギン・ブースター の効果は  
戦闘でモンスターを倒すのが条件・・・

倒した後で効果を発動しても2回目の攻撃はできない・・・  
。

この効果を生かすために ペンギン・オーバードライブ  
がある・・・。

「このためにあの時わざとあのカードを墓地へ送ったのか」

カイン・・・説明乙です。

遊泳「というわけだ！とどめの一撃、いくぜ！」

ATK 3100 +1900 ≡5000

鉄「攻撃力5000だと・・・！？」

遊泳「ペンギン・ウォリアーでナチュル・ビーストを攻撃！

ペンタレス・ブレードおお！！！！！！」

この一撃でナチュル・ビーストが一瞬で倒させる。

鉄「ぐわああああああああ！！！！！！」

鉄 LP 900 -1500 ≡0

WIN Y u e i

遊泳「おっし！勝ったぜ！」

このデュエルを見ていたカイン、そしていつの間に来たのか、周りの観客からの拍手が響き渡る。

遊泳「やはは〜どうもどうも〜。」



るところだろ？」

もちろんデュエルだけではなく勉強だってしなければならぬ。恐らくこいつはデュエルのためだけに入学するつもりだろう。まあこいつのことだ。学問の成績の悪さで即退学になるだろうな。案の定、

遊泳「デュエルのためならどこにでも行くぜ！

おい！入学金は！？制服は！？場所は！？」

この通り、遊泳は落ち着くこともできなくなった。

「デュエル」という言葉にはよく反応する。

カイン「入学金が・・・確かに気になるな。

ここんところ、消費があれなんだよな・・・。」

鉄「いえ、デュエル部からの推薦ですので、

デュエル部に入るだけなら入学金はそれほどかかりませんよ。手続きも簡単です。この書類の通り。」

カインと遊泳に普通の入学の手続きと

デュエル部に入部するだけの場合の手続きの書類が渡された。

カイン「部活入部だけのほうが手続きは楽だし、金もあまりかからない。

遊泳。お前部活だけでいいだろ？どうせ勉強はだめだし。

」

遊泳「デュエル部！もちろん俺はデュエル部だ！

勉強なんかどうでもいい！デュエル部に入部させてくれ！」

だれかこいつを黙らせてくれ。カインはそう心の中で叫んだ。

カイン「・・・決まりだな。ていうかデュエルアカデミアってデュエル中心だろ？」

鉄「ええ。学問のほかに、1週間に1度、デュエルの実習をする授業があります。」

カイン「授業はそこだけ出席・・・ってことはできないか？」

鉄「まあ・・・一応できますね。」

遊泳「うほっ！！」

カイン「じゃあ、そうさせてもらう。それと・・・授業中にこのバカが迷惑かけたら

すぐに教室から追い出してもいい。」

鉄「了解しました。では、入学許可書は後日お届けします。それでは、失礼します。」

そっぴい残し、鉄は家から出て行った。

デュエルアカデミア・・・いったいどんなところだろうな・・・。



ワクワクが止まらない俺……歓喜死しそうなくらいだ。

デュエルアカデミア・・・俺は後日、デュエル部に入部することになった。

それは……俺の人生の始まりと云っていい……。

そして、失われた俺の過去の記憶……。

これを思い出そうとするとワクワクがいきなり消えて、やはり頭痛がしてくる……。

だから俺はもう事故のことは考えないことにした。

それはさておき……これから俺のデュエルライフの始まりだ

!!

待ってるよ……デュエルアカデミア！！

[illegible]

## 次回予告

遊泳「デュエルアカデミアのデュエル部に入部した俺。

だがその前に待っていたのは教頭先生「Mr・K」とのデユエルだった。

それはまだいいが、やばいのは負けたら先生の恐ろしいオカルト話に一日中付き合わなければならないということ。とにかく先生のオカルト話は恐ろしいらしく、

一度に何人もの生徒が長時間気絶するほどらしい。  
気絶なんてごめんだぜ！絶対に負けるわけにはいかねえ！」

次回      TURN   02 「悪夢のデュエル 恐怖のアンデ  
ットデッキ」

遊泳「デュエルスタンバイ！」

今回の最強カード

遊泳「今回の最強カードは ペンギン・ウォリアー！」

攻撃力1900、守備力900だが、自分フィールドのペ  
ンギンモンスターの数だけ

攻撃力がさらに200ポイントアップだから、実質攻撃力  
2100。

もし戦闘で破壊されても、手札のペンギンモンスターを除  
外すれば

復活するすげーモンスターなんだぜ！」

テキスト

ペンギン・ウォリアー

5   ATK / 1900   DEF /   900

水属性・水族・シンクロ／効果

「ペンギン」と名のついたチューナー

+ チューナー以外の「ペンギン」と名のついたモンスター1体以上

このカードの攻撃力は自分フィールド上に  
表側表示で存在する「ペンギン」と名のついたモンスターの数×2  
00ポイントアップする。

このカードが戦闘によって破壊され、墓地へ送られたとき、  
手札から「ペンギン」と名のついたモンスター1体をゲームから除  
外すること

次のスタンバイフェイズ時に墓地に存在するこのカードを  
守備表示で特殊召喚する。

## TURN 02「悪夢のデュエル 恐怖のアンデットデッキ」(前書き)

デュエル部に入部することが決定した遊泳。

早速デュエルアカデミアに向かい、

教頭Mr・Kとデュエルすることに。

そこで一人の女子生徒、天子から

Mr・Kの恐ろしい罰ゲームの話を聞く・・・。

## TURN 02「悪夢のデュエル 恐怖のアンデットデッキ」

遊戯王 Eternal Bonds

TURN 02「悪夢のデュエル 恐怖のアンデットデッキ」

デュエルアカデミア入学許可書が遊泳に届いたのは鉄とのデュエルを終えてから2日後のことだった。

鉄 里士・・・彼はそのデュエルアカデミアの生徒の一人だった。遊泳と彼のデュエルが、遊泳の心を刺激したかもしれない。遊泳はこの日をずっと心待ちにしていたのである。

・デュエルアカデミアとはどんなところなのか・・・。  
・いろいろな人とデュエルができる・・・。  
・もしかしたら自分より強い人が集まっているかもしれない・・・。  
・

その他様々な期待が遊泳の心に詰まっている。そんな彼は、興奮しすぎて眠れず、寝不足になってしまったという・・・。

遊泳「ふぁゝあ・・・眠っ・・・。」

カイン「もう少し落ち着いて寝ることはできないのか？」

遊泳「ほえ？まあ、デツキの調整が忙しかったし、

今日のことを考え続けてたし、まあ、いろいろあったから  
な……。」

カイン「いろいろとありすぎだろ。」

遊泳「たちは朝早くから雑談を交わし、朝一のミルクを飲んでいた。

遊泳のことなら、多少の寝不足でもデュエルと聞いたら

寝不足など一切気にしないだろうとカインは思っていたが、  
実際はこの有様である。

デュエルバカの肩書きを持つ遊泳でも、睡魔には勝てなかった。  
だが、遊泳のデュエル精神が睡魔をある程度抑えている……  
カインはそんなことを考えていた。

遊泳「ところでさ、カインはどうするんだ？

お前もデュエルアカデミアに入学するのか？」

カイン「ああ、俺か？まあ気が向いたらな。

俺の自慢のデツキのキーカードが足りなくな……、  
それが揃っていたら俺も入学しようと思っていたが……

。」

遊泳「キーカードねえ……。」

カインはいったいどんなデツキを作っているのか……

遊泳はカインのデュエルをあまり見たこともないし、

デュエルしたこともなかった。

デッキの調整をしているところを覗いたことはあったが、カードはあまりよく見えなかった。

遊泳「なあ、その足りないキーカードって何だよ？」

カイン「そんなの言えるわけないだろ。

それでデッキの内容がばれたらまずいし……。」

遊泳「……だろうな。」

遊泳はそう呟いて舌打ちした。

やはりそう簡単に内容は明かしてくれない。

いや、まず明かす人はいないだろうと、遊泳は改めて思った。

楽しみは最後までとっておけということだ。

カイン「もう出発の準備はできたか？」

遊泳「ああ。」

カイン「アカデミアの場所は、この紙に書いてあるとおりだ。

後はあつちで頑張れ。たまに俺もそっちへ行くから。」

遊泳「ああ……行つて来るぜ！」

遊泳はそういい残し、家から出て行つた。

カイン「……さて、パックの買出しでも行つて来るか……。」

あいつにも何かあげればよかったな……。

カインも家から出ると、あることを考え出した。

カイン「久しぶりに一人になっちまったな……」

そういうば、遊泳と一緒に暮らすようになったのは結構前のことだったな・・・。」

[illegible]

## 事故の風景

あの時の事故以来、俺は奴と暮らすようになった。

何の前触れもなく起きた事故……

それはあるカードの力によって起きた大爆発。

これにより、**遊泳の住む町が炎に包まれた**……。

あの時、俺が遊泳の家に遊びに行く予定がなかったら

遊泳はあのときに逝っちまったかもしれない……。

俺は炎の中から辛うじて遊泳を助けることはできたが、

両親はさらに家の奥にいて、そこは火の手がより激しく、

俺の手には負えなかった……。

気になる事件の原因だが……。

カイン「カード……？」



「ええ。カードから物凄い力が放出され、大爆発まで至ったのです。」

成分やカードデータの解析、様々な手を尽くしましたが・・・特に何の異常もないただのカードなのです・・・。」

カイン「嘘だ！あんな恐ろしいことになって、

何も無いはずがない！ということなんだ！！」

「詳しいことはわかりません。今でも解析中で・・・しかし、何の進展も・・・、」

カイン「・・・。」

「しかし、変わったことといえば絵柄ですね。」

カイン「絵柄・・・？」

「フレームは魔法カード。絵柄は・・・妙なことに真っ白なのです・・・。」

カイン「つまり・・・絵柄がない・・・ということか・・・。」

「またわかったことがあれば、お知らせします。」

カイン「・・・。」

1枚のカードから起きた事故・・・

しかしそれ以外わかったことは何もなく、

こんなことは下手な化学反応でもまず普通はありえない事故だ。

事故の真相は完全に闇の中……いや、

闇の中どころか、どこにもない……そんな事故だった……。

あの事故は遊泳の大切な存在の記憶を消し去るほど恐ろしい事故だった。

その記憶はまだ遊泳には戻っていない。

**II**

なんとか・・・あの事件の手掛かりを見つけてほしい・・・

遊泳の大切な存在の記憶が戻ってほしい・・・。

そして、一日でも早く事故の真相を解明してほしい……。

そんな思いを抱き、カインはカードシOPPへと足を運んだ……

○

カインがカードショップから家に帰ろうとした頃、

遊泳は電車からデュエルアカデミアへ行くバスに乗り換えた。

そのとき、遊泳はカインと同じようなことを考えていた。

大切な存在の記憶はあの事故によって消え去った……。

その大切な存在本人が会いに来たとしても

ある程度刺激しない限り、思い出すことはないだろう。  
大切な存在の特徴自体、記憶にほとんどないのである。

このことを考えていた遊泳に、やはり頭痛が襲う。

無理に思い出そうとせず、自然に思い出すのを待とうとする。

しかし、その意思はいつも自然と消え、

やはり考えずにはいられない。

気がつくと、次のバス停はデュエルアカデミア前。

気づくのが少しでも遅かったら面倒なことになっていたかもしれない。  
ない。

これからのデュエルが楽しみだ。

その思いが、頭痛を完全に消し去った。

遊泳「デュエルアカデミア……。待っていてくれよ……。！」

しかし、バスが止まらず、バス停を通過してしまった。

遊泳「え？ちょっと待ってくれ！なんで止まらないんだよ！？」

運転士「え〜っと……。お客さん……。ブザー押してないじゃないですか。」

遊泳「え？」

運転士の言うとおり、バスを降りることを知らせるブザーを  
押していないことに気づいた遊泳。

「遊泳」しまったあああああああああああ！！！！！！！！！」

その声はバスの窓を貫通しそうな声だった。

下手したら、バスの乗車客全員の鼓膜が破壊されていただろう。この後彼は、次のバス停からダッシュでアカデミアに戻る。

しかしここからだとかアカデミアまでは相当な距離があり、今の時間だと1時間目の遅刻は免れることはできない。

尤も遊泳は授業ではデュエル実習しか出席しないことになっているため、

1時間目にでる必要はない。遅刻の心配もないということだ。

しかし、デュエルバカである彼は

またこのようなボケを連発してしまう可能性もある・・・。  
これから遊泳は学園で無事にやり過ごせるだろうか・・・。

「オープニング」

「CM（内容は各自のイメージにお任せします。）」

学校のチャイムが鳴り響く。

1時間目の授業が始まる頃である。

生徒達は授業に集中しているが、

遊泳はそんなことなど全く気にしないのである。

遊泳「どこだどこだどこだどこだあつ!!!」

職員室はどこだあーっ!!」

遊泳はこの通り生徒達の授業妨害をしている。

騒ぎながら、そしてドタバタしながら職員室を探し回っていた。

教師「ちよつとあなた！今は授業中です！

早く教室へ戻りなさい！」

遊泳「ん？あんた誰？」

遊泳は自分の態度も気にしない。

現実で真似するとただではすまないだろう。

教師「あら、あなた・・・見かけない顔ね。

もしかして・・・入学希望の方ですか？」

遊泳「まあ、そうですね。ところでおばさん誰？」

教師「~~~~~!!」

教師は怒りを込め、遊泳に一太刀かました。

。 遊泳「うおゝ・・・この痛みはブルーアイズを超える痛みだ・・・

先生・・・攻撃力いくつですか？」

遊泳は性懲りもなく変なことを聞く。

教師「はあ・・・馬鹿なこと聞かないでちょうだい。  
で、あなたは何をやっているの？」

遊泳「ああ、職員室に行こうとしているんですが・・・  
どこっすか？」

教師「職員室なら、その階段を昇ればすぐよ。」

遊泳「あざーっす！」

遊泳はその場から走り去った。

そして教師は教室に戻る。  
その教師はさっそく遊泳を問題児として見込んでしまったようだ。

遊泳は何とか職員室に到着。

遊泳「失礼しまゝす！」

やはり遊泳の態度はこの通り。

これで職員室にいる教師は全員、遊泳を問題児扱いしてしまう・

普通ならそうなるが・・・。

教師A「やあ！君が遊泳君だね！」

そう快く遊泳の名前を呼ぶ教師がいた。

遊泳「まあ・・・そうっす・・・。」

Mr・W「僕は水野 みずの 飛沫 しぶき っていうんだ。

デュエル部の顧問の一人！

そしてコードネームはMr・W！よろしくね！遊泳君！」

遊泳「こ・・・コードネーム・・・！？」

Mr・K「私は 鎌田 かまた 幽徒 ゆうと 。

本校の教頭であり、デュエル部の顧問でもあります。

そんな私を人呼んでMr・K。何卒、よろしく願いします。」

遊泳（何か不気味なオーラを放つ先生だな・・・。）

実際、彼を怒らせると怖いらしい。（Mr・Wの体験談）

Mr・W「そういえば、君はデュエル部へ入部するんでしょ？」

「だったらこいで1度デュエルしようよ！」

遊泳「デュエル！？よし！早速やりましょう！」

Mr・K「まあ、落ち着いてください。デュエルをするにもここは狭いでしょう。」

というか職員室でデュエルをするわけにはいかないでしょう。

地下にデュエルリングがありますので、そちらへどうぞ。」

「遊泳りよーかい！」

実際、入部するという言葉はここでは口にしなかったが、事前に鉄が入部届けを届けてくれたので、言わなくても入部したことになる。

それに、デュエル部からの推薦なのだ。

[illegible]

歩いてる途中、先ほど教師と出会った場所を歩いていた。その教室の中の生徒の視線は俺に向いている。

やはり授業妨害で迷惑がかかったんだろう。サーセン。



とある女子生徒「あーっ！あの人・・・見たことあるよ！」

教師「ちよっ・・・天子さん！お静かに・・・、」

天子「ゆうえー！ー！いつ！！！」

突然、一人の女子生徒が飛び出してきた。

遊泳「あ！やせいの　じょしせいと　が　とびだしてきた！」

天子「ねえねえ！君、あの天銀　遊泳でしょでしょ！？」

遊泳「ん？まあ、そうだけど？ていうかあんた誰？」

天子「空野そらの　天子てんこっていうんだ！よろしくね！」

遊泳「よろしくって言われても、俺、デュエル以外の授業出ないぞ？」

天子「ふえ？」

天子はその言葉を聞くと、頭の上にはてなマークを浮かばせているような顔をした。

Mr・K「このお方はデュエル部からの推薦で  
デュエル関係の授業の出席と、デュエル部の部活動のみでの  
入学となっておりますので・・・。」

天子「へえ・・・そうだったんだあ・・・。  
私達のクラスに入るかと思ったのに・・・。」

天子はしょんぼりと顔を下に向ける。

Mr・K「まあ、というわけで我々はデュエルリングへと向かいますので。」

天子「えっ！？本当ですか！？」

天子の目が人一倍輝く。

あの遊泳のデュエルが生で見れるかもしれない！  
そんな期待を浮かべた目だ。

Mr・K「・・・わかっていると思いますけど、

あなた達は授業中でしたのでしっかり授業を受けてください。

」

天子「」

チャンス逃したショックが大きかったのか、  
天子は言葉を失った。

Mr・K「まあ・・・放課後でしたら、彼の都合が良い間は  
デュエルし放題ですから・・・。」

天子「やったあ！そんじゃ、真面目に授業受けますっ！！  
次のテストで100点なんか楽勝くらいにっ！」

Mr・K「意気込みはいいのですがね・・・。」

遊泳「俺はデュエル部に入部するからさ、

放課後、俺とデュエルしようぜ。」

天子「はあい よろしく願いしますっ!」

Mr・K（このお方は遊泳と聞くと元気になるのですね・・・。）  
では、遊泳君。行きましょうか。」

遊泳「はい!」

Mr・K「ニヤリ・・・」

天子「遊泳!後でサインちょうだいっ!」

遊泳「はいはい。わあったよ。」

天子「ああ、そうだ!先生の怪談話には気をつけて!」

遊泳「は?」

天子「よくあるじゃん!みんなで夜に集まって

怖い話をしてキャー!ーッていうようなやつ!

教頭先生に負けたら一日中その話に付き合わなきゃいけないかもしれないの!」

Mr・K（・・・チツ。）

遊泳「何が言いたいんだ?」

遊泳は天子の話がさっぱり理解できていない。

天子「わかりやすく言えば罰ゲームよ！」

負けたらその怪談話で気絶させられるかもしれないの！」

遊泳「ふーん。怪談話で気絶するのか……。」「

遊泳「なに！？気絶って……。！？」

天子「しかも、一度に何人もの生徒が気絶してしまったらしくて、  
気絶中は怪談話の通りのイメージが襲ってくるんだって！」

遊泳「何だよそれ……。んな恐ろしいことがあつてたまるかよ・  
・。」「

遊泳はやっと天子の忠告の意味が理解できた。  
しかし、そんな話に動じる彼ではない。

遊泳「まあでもさ……。用は勝てばいいんだろ？」

天子「そうだけど……。教頭先生に勝てた人は  
ほとんどのいないの……。だから……。気をつけてね……。

」

遊泳「心配するなよ。俺が簡単に負けるわけがねえだろ。  
みんなの敵は俺が討つぜ！」

天子「遊泳……がんばってね……！」

遊泳は天子の応援の言葉を聞いて、Mr・Kについていった。

天子「そういえば教頭先生に勝った人が……  
この学園に一人だけいたような……。」

天子の教室の隣の教室で、  
ある生徒が遊泳たちが廊下を歩く様子を見守っていた……。

生徒「おい裂夜、どうかしたのか？」

裂夜「いや、なんでもない。気になるやつが歩いていただけだ。」

彼の名は 霸道<sup>はくどう</sup> 裂夜<sup>れつや</sup>。

長い空色の髪をした少年である。

彼の左目に刻まれている傷の秘密は本人以外知るものはいない。  
ちなみに学園で唯一の左利きである。

裂夜「ふ……天銀 遊泳か……。」

「デュエルリング」

Mr・K「到着しました。ここがデュエルリングです。」

遊泳「こりゃ広いもんだな・・・ところでさ・・・、」

遊泳は先ほどから気になることを聞くことにした。

遊泳「負けたら罰ゲームとかどうの言っていた人がいたんですか・・・。」

Mr・K「ばれたら仕方ありませんね・・・。」

Mr・Kは簡潔に真相を明かす。

Mr・K「まあ、用はあなたが負けたら一日中、私の大好きな怪談話に一日中付き合ってくださいますよ・・・。」

遊泳「おっとそうはいかないぜ。気絶させられるくらいなら、

勝って逃げ出すまでだ！」

Mr・K「果たしてそううまくいきますかね・・・？」

遊泳「やってみればわかるさ！さあ、始めましょうか！」

二人のデュエルディスクが起動する。

遊泳、Mr・K「デュエル！！」

Yuei VS Mr・K

遊泳「俺の先攻！ドロー！」

モンスターを裏側守備表示でセット！  
カードを1枚伏せてターンエンド！」

Mr・W（さあ遊泳君・・・どう動くかな？  
教頭先生は強いよ・・・油断しないでね・・・。）

Mr・K「私のターン！  
ブラッディ・スケルトンを召喚！」

ATK 1300 LV 4

Mr・K「さらに、装備魔法 ブラッドソード！」

Mr・K「バトル！ブラッディ・スケルトンで壁モンスター  
を攻撃！」

骸骨の騎士の持つ血塗られた剣が振り下ろされる。

遊泳「ふ・・・俺のモンスターは ペンギン・ガードナー ! 守備力1900だ!

先生! あんたには反射ダメージを受けてもらっぜ!

Mr・K「ふふふふ・・・それはどうでしょう?」

遊泳「なに・・・!?」

よく見ると ペンギン・ガードナー の様子がおかしい。  
さらによく見るとあの不気味な剣の呪いの力で苦しんでいた。

Mr・K「ブラッドソード はアンデット族モンスター専用の  
装備魔法・・・

装備モンスターが攻撃するとき、対象モンスターの元々の  
攻撃力が元々の守備力を、  
ダメージステップ終了時まで半分にすることができるので  
す!

遊泳「なんだと!？」

ペンギン・ガードナー

DEF 1900 ÷ 2 = 950

Mr・K「さらに、ブラッディ・スケルトン は守備モンスター  
Iを攻撃したとき、

その守備力を攻撃力が超えていれば、その差の数値分の  
戦闘ダメージを相手ライフに与える!



ペンギン・ガードナーが血塗られた剣に斬られる。

遊泳「ぐ．．． ペンギン・ガードナー は1ターンに1度だけ、  
戦闘では破壊されない．．．！」

Mr・K「しかし、戦闘ダメージは有効ですよ。」

遊泳 LP 4000 - 350 〃 3650

Mr・K「そして ブラッドソード の代償．．．  
装備モンスターの攻撃力は、相手に与えた戦闘ダメージの  
数値分下がっていきます．．．。」

ブラッディ・スケルトン

ATK 1300 - 350 〃 950

Mr・K「ちなみに、この効果で攻撃力が0になった場合、  
装備モンスターは破壊され、持ち主はそのモンスターの  
元々の攻撃力分のダメージを受けます。  
そして、 ブラッディ・スケルトン の効果発動！  
戦闘ダメージを与えたとき、相手は二つの効果のうち、  
ひとつの効果を発動させる！」

遊泳「．．．。」

Mr・K「ひとつは、手札を1枚選択して捨てる。  
もうひとつはあなたがカードを1枚ドロし、  
手札を私に1枚選ばせてデッキの一番下に戻す．．．。  
さあ、どちらを選びますか？」

遊泳「く……。」

一つは自分から手札を1枚捨てる効果。  
もう一つは俺はカードを1枚ドローできるが、  
捨てる手札を決めるのは相手プレイヤー……  
ここは……、

遊泳「手札を1枚捨てる効果を選択する！」

ペンギン・ブースター

M r・K「ペンギン・ブースター ですか……

永続魔法 不死式冥界砲 を発動。

さらにカードを1枚伏せてターンエンドです。」

遊泳 LP 3650

M r・K LP 4000

遊泳「よし、俺のターン。 ペンギン・ソードマン を召喚！」

ATK 1600 LV 3

遊泳「モンスター効果発動！メインフェイズ時にこのカードの攻撃力を

インの  
エンドフェイズまで500ポイント下げること、このタ

バトルフェイズに2回攻撃ができる！」

Mr・K（ほう、そのために ペンギン・ブースター を・・・  
やはりデュエルとなると、彼は真剣ですね・・・。）

遊泳「いくぜ！ ペンギン・ソードマン で  
ブラッディ・スケルトン を攻撃！」

Mr・K「・・・。」

Mr・K	LP	4000	-150		3850
------	----	------	------	--	------

遊泳「そして、 ペンギン・ソードマン が戦闘で相手モンスタ  
ーを

破壊したとき、相手に300ポイントのダメージを与える

！」

Mr・K「ぬう・・・。」

Mr・K	LP	3850	-300		3550
------	----	------	------	--	------

遊泳「ここで ペンギン・ブースター の効果発動！

自分のペンギンモンスターが戦闘で相手モンスターを破壊  
したとき、

墓地のこのカードをゲームから除外することで、そのペン  
ギンモンスターの

攻撃力をエンドフェイズまで倒したモンスターの攻撃力分  
アップさせる。」

Mr・K「む・・・。」

ペンギン・ソードマン

ATK	1100	+950		2050
-----	------	------	--	------

遊泳「これでダイレクトアタックすれば、

あんたのライフは多く削れるぜ！」

Mr・K「ダイレクトアタックねえ・・・そんなことができますか？」

遊泳「なに・・・！？」

フィールドをよく見ると、倒したはずの

ブラッディ・スケルトン がフィールドに存在していた。

遊泳「ばかな！？なぜ・・・。」

Mr・K「トラップカード リバイバル・ヘイト を発動させていたのですよ。」

戦闘でアンデット族モンスターが破壊され墓地へ送られたとき、

手札のアンデット族モンスター1体を墓地へ送り、破壊されたモンスターを攻撃表示で召喚し、このカードを装備する。

ヴァンパイア・レディ を墓地へ送り、ブラッディ・スケルトン を復活させたのです。」

ブラッディ・スケルトン

ATK 1300 LV 4

Mr・K「不死式冥界砲の効果発動。

私の場にアンデットモンスターが特殊召喚されたとき、

1ターンに1度、相手に800ポイントのダメージを与える！」

カードの映像からエネルギー砲が放たれる。

遊泳「ぐわっ・・・！」

遊泳 LP 3650 - 800 〓 2850

Mr・K「そして、相手ターンのエンドフェイス毎に

装備モンスターの攻撃力は500ポイントずつアップする・

・・・

ただし、装備モンスターが破壊されたとき、

そのモンスターの攻撃力の半分のダメージを

お互いのプレイヤーが受ける・・・。」

遊泳「じゃあ、攻撃だな。俺へのダメージはなるべく抑えたいし。」

ブラッディ・スケルトン が倒され、霊エネルギーが飛び散る。

遊泳「ターンエンドだ。」

遊泳 LP 2850 - 650 〓 2200



遊泳「ルールとマナーを守って楽しくデュエルしよう！」

収録カード

トビックスンギン

ボルト・ペンギン

ペンギン・ナイト

ペンギン・ナイトメア

ペンギン・リクルーター Super

チューン・ペンギン  
Super

ペンギン・ソルジャー

大皇帝ペンギン

その他諸々

ペンギン・ウォリアー  
Ultra

他計2枚のシンクロ、エクスシーズ

C  
M  
終了

[illegible]

Mr. K「ふっ……私のターン！魔法カード 不死の宝札 を  
発動。」

墓地の守備力0のアンデットモンスター1体をゲームから除外し、カードを2枚ドロースする。

私は ブラッディ・スケルトン を除外する。  
そして ゾンビ・マスター を召喚！」

ATK 1800 LV 4

Mr・K「モンスター効果発動！手札のモンスター1体を墓地へ送り、

墓地のレベル4以下のアンデットモンスター1体を特殊召喚する！

ゾンビキャリア を墓地へ送り、  
蘇れ！ ヴアンパイア・レディ ！」

ATK 1550 LV 4

Mr・K「不死式冥界砲 の効果により、800ポイントのダメージを受けなさい！」

遊泳「うおっ！」

遊泳 LP 2200 - 800 〃 1400

遊泳（まずい・・・これじゃあ、こいつらの攻撃を受けたら、

俺のライフがなくなる・・・！）

トラップ発動！ ペンギン・バインド ！

自分フィールドにペンギンモンスターが1体以上存在する

ときに発動できる！

このターン、相手は自分フィールドのペンギンモンスターの数までしか攻撃ができない！」

Mr・K「・・・墓地の ゾンビキャリア の効果、

手札1枚をデッキの1番上に戻すことで、

墓地のこのカードを特殊召喚する！」

ATK 400 LV 2 チューナー



遊泳「チューナーか！」

Mr・K「いきますよ・・・レベル4の ゾンビ・マスター、  
ヴァンパイア・レディに

レベル2の ゾンビキャリア をチューニング！

地獄に墜ちし怨念よ・・・不死の力を得て現代へと蘇れ！  
シンクロ召喚！

いでよ！ イモータル・デス・ソーサラー ！！」

ATK 2500 LV 10

。　  
遊泳「レベル10のシンクロ・・・にしては攻撃力が低いな・・・」

Mr・K「このカードがシンクロ召喚に成功したとき、カードを  
1枚ドロ―する。

バトル！ イモータル・デス・ルーラーで

ペンギン・ソードマン を攻撃！

イモータル・デス・フレアー！！」

遊泳「ぐわあっ！」

攻撃があたった周りで大爆発が起きる。（あくまでイメージで  
す。）

遊泳 LP 1400 - 900 〃 500

Mr・K「モンスター効果発動！破壊したモンスターと同じ攻撃  
力を持つ

イモータルトークン 1体を特殊召喚する！」

ATK 1600 LV 4

Mr・K「そして、私のスタンバイフェイズに1度、

イモータルトークン をリリースすることで

そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。」

遊泳「なにっ!？」

Mr・K「さらに、イモータルトークン と戦闘を行っても、

お互いへのダメージは0となる・・・。

そして、イモータル・デス・ソーサラー が破壊される

場合、

代わりに イモータルトークン をリリースして破壊を免れることができる。」

遊泳「・・・!」

Mr・K「そして、カードを1枚伏せてターンエンド!」

遊泳 LP 500

Mr・K LP 1850

絶体絶命の状況におかれている遊泳。

このターンで何とかしなければ負けてしまう。

遊泳「俺のターン!」

Mr・W「・・・。」

Mr・K「さあ、何を引いたのでしょいかね・・・。」

遊泳はカードを引いた瞬間、笑い出した。

遊泳「・・・引いたぜ・・・あのカードを！」

Mr・K「？」

遊泳「チューナーモンスター、チューン・ペンギンを召喚！」

ATK 500 LV 3

遊泳「そして、チューン・ペンギンは1ターンに1度、ペンギンモンスター1体のレベルを1つ下げることができる！」

ペンギン・ガードナー LV 3 - 1 〃 2

遊泳「レベル2 ペンギン・ガードナーに、レベル3 チューン・ペンギンを

チューニング！！遙か彼方の大地の戦士よ・・・正義の叫びとともにその姿を現せ！

シンクロ召喚！現れる！ ペンギン・ウォリアー！！！」

ATK 1900 LV 5

Mr・K「ほう・・・。」

遊泳「このカードの攻撃力は、自分フィールドの

ペンギンモンスターの数×200ポイントアップする！」

ATK 1900 +200 ≡ 2100

遊泳「バトル！ ペンギン・ウォリアーで

イモータルトークンを攻撃！」

Mr・K「イモータルトークンと戦闘を行っても、互いのダメージは0となる……。」

遊泳「カードを1枚伏せてターンエンドだ。」

Mr・K「私のターン。トラップ発動！ ふしこんせいせいじゅつ 不死魂精製術！

スタンバイフェイズに私のフィールドに

イモータル・デス・ソーサラーが存在するときに発動できる。

私のフィールドに攻撃力1500のイモータルトークンを特殊召喚する！

ただし、このターンイモータル・デス・ソーサラーの射出効果は使えなくなりますがね。しかし、こちらには装備魔法がある……。」

遊泳「……まさか……！」

Mr・K「そうです。装備魔法ブラッドソード！

これで私の勝利は確定した！」

Mr・W「これでペンギン・ウォリアーの元々の攻撃力1900が

半分の950になるから攻撃力は1150……。」「

Mr・K「とどめです！ イモータル・デス・ルーラーで  
ペンギン・ウォリアーを攻撃！  
イモータル・デス・フレアー！」

遊泳「トラップ発動！ ペンギン・シンクロ・トリガー！  
ペンギンのシンクロモンスターが戦闘を行うときに発動で  
きる！」

デッキの上からカードを2枚墓地へ送り、  
その中のペンギンと名のついたモンスターの数だけ、  
そのペンギンモンスターの攻撃力をエンドフェイズまで  
500ポイントアップさせる！」

Mr・W「けど、墓地へ送るカードが2枚ともペンギンモンスター  
でなければ負ける・・・！」

Mr・K「よろしい。最期の悪あがきを見せてみなさい・・・。」

遊泳「デッキチェック！」

ペンギン・ソルジャー  
大皇帝ペンギン

Mr・K「ぬ・・・。」

ATK 1150 +1000 〃 2150

遊泳「これでライフがギリギリ残ったぜ！」

遊泳 LP 500 -350 〃 150

Mr・K「む・・・ターンエンド・・・。」

遊泳 LP 150

Mr・K LP 1850

遊泳「先生・・・やっぱりデュエルは最高に楽しい・・・。」

先生達だつて・・・そうだろ？」

Mr・W「僕も遊泳君と同じ気持ちだよ。」

僕もデュエルなしじゃ生きていけないかも・・・。」

遊泳「まあ、怪談話も悪くはないけどな・・・。」

生徒達を気絶させたら、その楽しさを奪うことになるんじゃないか？」

Mr・K「負けそうだからとそうやって逃げることは許されませんよ？」

遊泳「ばれたか。」

遊泳は軽く舌打ちする。

遊泳「けど、勝利の方程式くらいは揃っているさ。」

Mr・K「なんですと？」

遊泳「先生たちには本当に感謝しているさ。」

勉強は無理で、デュエルしかできない俺をデュエル部に入れてくれてさ・・・。」

Mr・W「遊泳君……。」

遊泳「この俺の感謝の気持ち……受け取ってください……！」

そう言つと遊泳は手を上げて……、

Mr・K「こ……これは……！」

遊泳「ファイナルターン！」

Mr・W「遊泳君が……ファイナルターン宣言を……！？」

遊泳「ペンギン・ウォリアーの効果発動！

手札のペンギンモンスター1体をゲームから除外して

戦闘で破壊され墓地へ送られたこのカードを守備表示で特

殊召喚できる！

リング・ペンギン を除外！」

DEF 900 LV 5

遊泳「魔法カード ペンギン・リターン！

除外されているレベル4以下のペンギンモンスター1体を

特殊召喚する！ リング・ペンギン を特殊召喚！」

ATK 100 LV 2 チューナー

Mr・W「更なるシンクロ召喚・・・！？」

遊泳「レベル5 ペンギン・ウォリアーに

レベル2 リング・ペンギンをチューニング！

遙か彼方に住む鬼神を宿し戦士・・・

その闘志を燃やし、大地を砕く！シンクロ召喚！

唸れ！ ペンギン・ファイター！」

ペンギン・ファイター ATK 2600 LV 7

遊泳「また、このカードの攻撃力は、エンドフェイズまで

このターンに特殊召喚に成功した回数×400ポイントアップする！」

ATK 2600 +400 X3 3800

遊泳「そして、リング・ペンギンの効果。

シンクロ素材として墓地へ送られたとき、

相手フィールドの守備力が最も低いモンスター1体を墓地

へ送る。

イモータルトークンはトークンだから破壊される。」

イモータル・デス・ソーサラー DEF 2500

イモータルトークン DEF 0

Mr・K「しかし、それでも私をこのターンで倒すには不十分な攻撃力。

ファイナルターン宣言・・・失敗ですね。」



遊泳「いや、トラップ発動！ ペンギン・ブラスト！

俺のライフが相手のライフより低い場合、

手札1枚を捨てて発動できる！

エンドフェイズまでペンギンモンスター1体の攻撃力は

800ポイントアップし、戦闘でモンスターを破壊して墓

地へ送ったとき、

その攻撃力の半分のダメージを相手に与える！」

Mr・K「な・・・なんと・・・！」

ATK 3800 +800 = 4600

遊泳「バトル！ ペンギン・ファイターで

イモータル・デス・ソーサラーを攻撃！

ペンギン・ファイティング・パンチ！」

Mr・K「ぐおおおおお！！！！！」

Mr・K LP 1850 -2100 = 0

WIN Yui

Mr・W「すごい・・・宣言どおり、このターンで勝っちゃった・  
・・・！

さすが遊泳君だよ！」

遊泳「へへっ・・・。」



Mr・K「しかし、遊泳君は彼に似ていますね・・・。」

Mr. K 「裂夜君に・・・。」

教室

裂夜（天銀・・・遊泳・・・。）

[illegible]

## 次回予告

遊泳「俺はこれからデューエル部で部活動を始めることになった。」

俺は実質後輩のようなものだけど、みんなからは先輩扱いされている。

だが、それでも俺は学園で2番目という扱いになっていた。

その理由を聞こうとしたら天子にデュエルを申し込まれた。そういえばまだサインあげてなかったな。

このデュエル中に俺が学園で2番目だという理由が明かされる・・・!」

次回      T U R N    0 3 「正義の天使光臨    ヘブンス・ア  
スタート」

遊泳「まさか、実力が俺より上の奴がいるっていうのか!？」

今回の最強カード

Mr・K「今回の最強カードは    イモータル・デス・ソーサラー  
。」

攻撃力、守備力は2500。シンクロ召喚に成功したとき、  
カードを1枚ドローする。

戦闘で破壊したモンスターと同じ攻撃力を持つトークンを  
特殊召喚し、

1ターンに1度、そのトークンをリリースし、その攻撃力  
分のダメージを

相手プレイヤーに与える恐ろしいカードですよ。」

テキスト

イモータル・デス・ソーサラー

闇属性・アンデット族・シンクロ/効果

「ゾンビキャリア」+チューナー以外のアンデット族モンスター2体以上

このカードのシンクロ召喚に成功したとき、自分はデッキからカードを1枚ドロウする。

このカードが戦闘によって相手モンスターを破壊し墓地へ送ったとき、

そのモンスターと同じ攻撃力を持つ

「イモータルトークン」(アンデット族・闇・星1・攻/? 守/0)1体を特殊召喚する。

そのトークンが戦闘を行うことによって発生するお互いへのダメージは0になる。

また、1ターンに1度、「イモータルトークン」1体をリリースすること、

そのモンスターの攻撃力分のダメージを相手ライフに与える。

この効果を発動するターン、このカードは攻撃を行うことができない。

TURN 02「悪夢のデュエル 恐怖のアンデットデッキ」(後書き)

本作は8／9割がオリ力ですが、  
バランスはいい方でしょうか・・・？  
皆様のご感想をお待ちしております。



## TURN 03「正義の天使光臨 ヘブンス・アスタロト」

遊戯王 Eternal Bonds

TURN 03「正義の天使光臨 ヘブンス・アスタロト」

今はちょうど昼飯の時間だった。

今日の俺の昼飯のメニューは

カツサンド3つ、ジャムパン2つ、そして、幕の内弁当1つ・・・  
・・・なんて俺はそんな大食いじゃない。  
カツサンド1つとジャムパン1つだ。

学園の売店は主にパンやカードパックが売られていて、  
一番の目玉はドローパンだった。

学園内だけでなく、どのコンビニでもある運試しのパン。

中身は食べるまでわからず、

いい具が入っているパンが食べられるかどうかは

自分の運にかかっている。

窮地の状況で運命のドローをするかのように・・・。

尤も俺はドローパンは買わない。

その強い運ならデュエルに使いたい。

ドローパンを買うときはなぜかいつも運が悪いほうだ。

昔俺がドローパンを10個買ったとき、

なぜかその内の7個が具なしだったのだ。  
おみくじで大凶をドローしたかのように。

・・・思ったけど10回おみくじやって、

1枚でも大吉をドローするのと、

10枚全部大凶をドローするのってどっちが運がいいんだ・・・？

俺のランチタイムは終了して、

後は放課後デュエルタイムを待つだけ。

俺がまず最初に疑問に思ったのはデュエル部の部員の人数だ。

デュエルアカデミアという程だから相当な数だろう。

・・・あれ？そもそも部室どこだっけ？

まだ部室のことは先生から聞いていなかったな。

仕方ない。また先生でも探し回るか。

今は昼休みだから先生も数人はうろついているはずだ。

だから簡単に聞けるはず。

遊泳「さて、適当に先生でも探るか・・・。」

裂夜「・・・。」

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 オープニング 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓 C M (内容は  
各自のイメージにお任せします。) 〓 〓 〓 〓 〓 〓 〓

タイトルコール

先生を見つける前にチャイムが鳴ってしまった。  
先生が多くうろついている昼休みははずなのに  
なぜ先生を見つけることができなかったのか。

理由は簡単。トイレに行ってたからである。

遊泳「あゝ、ついてないな……。見つけれないなんて。  
授業に出ない俺が廊下うろついててもまずいしな……。  
仕方ない。デュエルリングで待つか……。」

Mr・Kとのデュエルが終わった後、俺はずっとそこにいた。  
そこでデッキレシピの交換をしたり、  
カードの評価、分析をしたりと、楽しいことばかりだった。  
デュエル部の部室といったらここしかないと思えるくらいだった。

実際、本当のことだった。

ようやく放課後デュエルタイムが始まる時間だった。

そこには何人も部員らしき人がぞろぞろと入ってきた。  
そこには、あの女子生徒がいた。

天子「ゆーうえー！ーいつ！ー！！」

遊泳「天子！？」

こいつはあの時、廊下を歩いている途中に会った生徒だ。

天子「びっくりしたよっ！教頭先生に勝っちゃったんでしょっ！  
？」

遊泳「まあ、当たり前だ！デュエルバカの肩書きをなめるなよ！」

部員A「僕、遊泳さんのデュエルを見てすごいなあと思いましたよ！」

遊泳「え？見てたって・・・デュエルリングには先生2人と俺しか・・・、」

遊泳がそう言つと部員Aは指を上に向けた。

部員A「ここにはデュエルを写すためのカメラがついてるんです。

昼休みにこのビデオを見たんです。」

遊泳「ああ、なるほどな・・・。」

天子「ねえねえ！サインくれるって言ったよね！？ね！？」

遊泳「はいはい、わかってるよ。」

部員B「あつ！ずるゝい！私も！」

部員C「僕にも！」

遊泳「ちよっ・・・おま・・・落ち着け！まずは1列に並んでくれ！」

何人もの部員が遊泳に押し寄せる。

部員A「やれやれ・・・。」

裂夜「・・・。」

遊泳「はい、どうぞ。」

部員D「あっ・・・ありがとうございますっ！先輩っ！」

遊泳「せ・・・先輩って・・・。」

俺は一通りサインの受付を終えた。  
そこである生徒に先輩と呼ばれた。  
いやゝ照れる。

天子「こんな有名なデュエリストにサインをもらえるなんてうれ  
しいっ!!」

あいつ、サイン欲しいって言うてもくれないし・・・。」

遊泳「あいつ?」

天子がある方向に指を刺す。  
しかし、そこには誰もいなかった。

遊泳「なんだ? お前、幽霊でも見えるのか?」

部員E「幽霊とはどんな効果だ? いつ発動する?」

部員C「空気読めよ。」

天子「あれ・・・おかしいな・・・さっきいたんだけど・・・。」

遊泳「まあ、この俺の強さにびびって逃げたんだろ。」

教頭先生に勝った俺に敵などいない! なぁんちゃってな・・・

。。  
」

天子「そんなことない。。。」

遊泳「え？」

天子が呟く。

天子「あなたは・・・学園で最強ってわけじゃない・・・。  
遊泳の実力は学園で2番目の・・・。」

遊泳「そ・・・それってどういうことだよ!？」

天子「ごめん、変なこというけど・・・  
遊泳でもあいつには・・・勝てないと思う・・・。」

遊泳「そんなのやってみなけりゃわからないぞ？  
ていうかあいつって誰だよ？幽霊部員か？」

天子「だから幽霊じゃないわよ。」

天子がツツコミを入れる。

天子「霸道はどつ 裂夜れつや・・・

学園・・・いや、世界最強といってもいいデュエリスト・・・。  
」



遊泳「世界最強・・・？」

天子「あいつは・・・優しくて付き合いがいい・・・

反面、めんどくさがり屋でうざいところもあるけど、

デュエルの腕は、教頭先生や校長先生をも軽く凌駕するわ・

・・・」

遊泳「軽くって・・・。」

天子「教頭先生はね、遊泳はあいつに似てるっていったた。

それがあなたのあの決め台詞なの・・・。」

遊泳「台詞？そんなの俺はなにも・・・っ！そうか、まさか・・・。」

天子「ファイナルターン・・・。決して私たちには真似できない・・・・。」

それが遊泳と裂夜にはできる・・・。

知ってるでしょ？大会中にこの宣言が失敗したとき、

挑発行為とみなされて失格になるの。」

遊泳「へえ。」

遊泳はそんなことなど知らなかった。

本人曰く、ただノリでやったとのことである。

天子「遊泳・・・どこまであいつに似てるのよ・・・。」

裂夜もノリでやったとか言ってたわ・・・。」

遊泳「俺やそいつのようにデュエルバカにしかやれないことだつてあるんだぜ。（キリッ）」

遊泳は誇らしげに言った。

遊泳「ああ、そういえばデュエルはどうした？  
やろうぜ！みんなでデュエルを！」

天子「ああそうだった！私、先にデュエルする！」

部員F「ずりい！俺からだ！」

天子「絶対私！だよね！？ね！？ね！？」

これは申し込むというより引きずり込むと言ったほうがいいのか。これからどうしたことが・・・。

部員G「いや、ここは遊泳本人に指名してもらったらどうだ？」

部員H「おっ！賛成だ！遊泳！対戦相手、指名してくれ！」

遊泳「じゃあ天子で。」

遊泳はあっさりと対戦相手を指名した。

天子「やったあ！」

部員A「な・・・なんでだよ！？なんでそうあっさりと決めるんだよ！？」

遊泳「いや、あっさりも何もこいつしか名前知らないし。」

部員たち「あ。」

デュエルリングのステージで二人はデュエルディスクを起動させる。

遊泳「ソリッドビジョンシステム作動！  
ライフカウンター4000！」

天子「遊泳！いつでもいいわよ！」

遊泳「それじゃあ早速・・・、」

遊泳、天子「デュエル！！」

Y u e i   V S   T e n k o

天子「私の先攻！ドロー！速攻魔法 光神化！

手札の天使族モンスター1体を、  
攻撃力を半分にして特殊召喚する！」

遊泳（早速素材を揃えにくるか・・・。）

天子「来て！ 創造の代行者 ヴィーナス！」

A T K	1 6 0 0	8 0 0	L V	3
-------	---------	-------	-----	---

天子「ヴィーナスのモンスター効果発動！

ライフを500ポイント払うことで、

デッキ、手札から 神聖なる球体 を特殊召喚できる！

私は1500ポイントのライフを払い、デッキから3体特殊召喚する！」

天子 LP 4000 - 1500 Ⅱ 2500

神聖なる球体

ATK 500 LV 2

天子「後は フェアリー・アーチャー を通常召喚！」

ATK 1400 LV 3

天子「 フェアリー・アーチャー は1ターンに1度、このカードの攻撃を

放棄する代わりに、自分フィールドの  
光属性モンスターの数×400ポイントのダメージを相手に与える！」

遊泳「なっ!?!」

天子「私の場には光属性モンスターが5体！  
よって与えるダメージは2000ポイント!!」

フェアリー・アーチャー の5本の光の矢が遊泳を襲つ。

遊泳「どわっ!」

遊泳 LP 4000 - 2000 Ⅱ 2000

天子（後は遊泳のターンにこのカード・・・ソーラーレイを発動させれば私の勝ち・・・）

このカードの効果は、自分フィールドの光属性モンスター1体につき、

600ポイントのダメージを相手に与える・・・。

遊泳も実は大したことなかったのね・・・。見掛け倒しつてやつかな。

まあ、念のため、他のカードも出しておくか。）

フィールド魔法 天空の聖域 を発動！」

天子の立つところに神殿が、

そして遊泳の立つところには雲の床が現れる。（あくまでイメージです。）

遊泳「これは・・・。」

天子「天使族モンスターが戦闘を行う場合、

そのコントローラーへの戦闘ダメージは0になるの・・・。

」

遊泳「厄介だぜ・・・。」

天子「さーて、カードを2枚伏せてターンエンド！」

（よし、これで勝てる！」

部員E（天子ちゃん・・・説明死しなきゃいいけど・・・。）

光神化 の効果によって特殊召喚されたヴィーナスは

エンドフェイズに破壊される。

遊泳「俺のターン！ドロー！」

天子「この瞬間、トラップ発動！ソーラーレイ！！

自分フィールドの光属性モンスターの数×600ポイントの  
ダメージを相手に与える！

私のフィールドにモンスターは4体！  
与えるダメージは2400ポイント！」

カードから虹色のレーザーが放たれる。

天子「これで終わりね！遊泳！」

遊泳の周りで爆発が起こる。

天子「勝った……。遊泳に勝ったんだ……。」

遊泳「それはどうかな。」

天子「!？」

遊泳「手札の ミラー・ペンギン は、相手が効果ダメージを発生させる

カードを発動したとき、手札から特殊召喚ができる。」

DEF 2000 LV 4

遊泳「そして、このカードが場にある限り、俺が受ける効果ダメージは半分になり、

受けたダメージ分、相手にもダメージを与える!」

天子「なんですって……きやあつ!？」

遊泳	LP	2000	-1200		800
天子	LP	2500	-1200		1300

遊泳「ふう、こいつを引けなかったら死んでたぜ……。」

天子「ふうん、やっぱり引きの運もいいのね。」

遊泳「さあて、ここからどう反撃するかな……。」

CMへ





ATK 2300 - 500 〃 1800

遊泳「1回目の攻撃！対象は フェアリー・アーチャー！」

天子「くっ・・・ ペンギン・ソードマン は確か、

戦闘でモンスターを破壊したとき、300ポイントのダメージを与えるのよね。」

遊泳「そう。効果ダメージだから 天空の聖域 では無効にならない！」

天子 LP 1300 - 300 〃 1000

遊泳「2回目のバトル！ 神聖なる球体 を攻撃！」

球体が割れて光の粒となって消える。

天子 LP 1000 - 300 〃 700

遊泳「俺はカードを2枚伏せてターンエンドだ！」

遊泳 LP 800 手札 1枚

天子 LP 700 手札 0枚

遊泳「楽しいぜ天子。このデュエル・・・お前を選んでよかったぜ。」

天子「うん！私を選んでくれてありがとう！」

（そもそも選択肢は私しかなかったけど。）

遊泳「やっぱ、俺より強い奴はまだまだいるもんだな……。入部してからそれが実感できた……。」

天子「それじゃあ、もつと実感させてあげる……。」

遊泳「え？」

天子「私のターン！」

遊泳（奴の手札はあの1枚だけ……。あとは  
伏せカード1枚と、神聖なる球体が2体……。  
何を仕掛けてくる気だ……。）

天子「来た……。神聖なる球体をリリースして、  
ホーリーシャインクリエーター  
神聖なる創造者をアドバンス召喚！」

ATK 500 LV 5

遊泳「攻撃力がたったの500だと……。？」

天子「この子のモンスター効果……。アドバンス召喚に成功した  
とき、

墓地の 神聖なる球体 を可能な限り守備表示で特殊召喚  
できる！

戻ってきて！ 神聖なる球体！」

ATK 500 LV 2

天子「この効果で特殊召喚に成功したモンスター1体につき、500ポイント、私のライフを回復する！」

天子 LP 700 +500 〃 1200

天子「そして、トラップ発動！  
ホーリーシャインシンクロ 神聖なる同調！」

自分フィールドの光属性モンスター1体を選択して発動！  
そのモンスターのレベルをもう1体の光属性モンスターを  
選択して、

そのモンスターのレベルと同じにする！  
神聖なる創造者 のレベルを 神聖なる球体 と同じ2  
にする！」

遊泳（だがあのモンスターはチューナーじゃない……。

奴の場にはレベル2のモンスターが4体……まさか……

！！）

天子「いくわよ……！レベル2の 神聖なる球体 3体と  
神聖なる創造者 をオーバーレイ！！！」

フィールドの中心に渦が現れる。

天子「4体のモンスターでオーバーレイネットワークを構築！！  
エクシーズ召喚！！」

私の聖なる守護者！！ ヘブンズ・アスタロート ！！！」

美しい羽を持つ天使の女神が光臨する。

ATK 0 RANK 2  
オーバーレイユニット  
OV 4

遊泳「攻撃力・・・ゼロ・・・!?!」

天子「モンスター効果。エクシーズ素材にした  
モンスター1体につき私の500ポイントライフを回復す  
る!」

天子 LP 1200 +2000 〃 3200  
遊泳「嘘・・・だろ・・・!?!」

天子「まだ効果は続くわ。このカードの攻撃力、守備力は  
自分のライフが相手のライフを超えている数値分アップす  
る!」

遊泳 LP 800  
天子 LP 3200

差 2400

ヘブンス・アスタロート

ATK 2400

遊泳「・・・！」

天子「バトルよ！ ヘブンス・アスタロートで

ペンギン・ソードマン を攻撃！

ジャステイス・スパーク！！」

天使の後ろから眩しい光が放たれ、

そこに電撃の力が加わり、 ペンギン・ソードマン に向けて放たれる！」

遊泳「くっ・・・トラップ発動！ ポセイドン・ウェーブ ！！

モンスターの攻撃を無効にし、さらに俺の場の

水族・魚族・海竜族モンスターの数×800ポイントのダ

メージを相手に与える！」

天子「だ・め・よ

ヘブンス・アスタロート の効果発動！

1ターンに1度、エクシーズ素材を1つ取り除いて、相手の

トラップカードの発動を無効にし、私のライフを300ポ

イント回復できる！」

OV 4 - 1 Ⅱ 3

遊泳「トラップの効果が無効にしてライフを回復し、

さらに自身の攻撃力をあげるだ・・・やる事が污えぜ！

！」

天子「それくらいの効果がなけりゃ釣り合わないじゃん。  
せつかく4体ものモンスターを揃えたんだから。」

まあ、そんなことを言われると反論のしようがない。

天子 LP 3200 + 300 = 3500

ヘブンズ・アスタロート

ATK 2400 + 300 = 2700

遊泳「くっ・・・ペンギン・ソードマン・・・!」

遊泳 LP 800 - 400 = 400

遊泳「だが、無効にできるカードは1ターンに1枚だけ!

永続トラップ ペンギン・リベンジ!

ペンギンモンスターが戦闘を行い、俺がダメージを受けた  
とき、

ダメージ100ポイントにつき、このカードに  
ペンギン  
Pカウンターを1個乗せる!」

Pカウンター 4

遊泳「さらに、墓地に送られた ペンギン・ソード の効果発動!  
デッキの1番上をめくり、それがペンギンモンスターなら、  
そのモンスターを特殊召喚できる!」

リング・ペンギン

遊泳「よし！こいつを特殊召喚！」

ATK 100 LV 2 チューナー

天子「シンクロ召喚をしてくる気ね。

でも、私のモンスターを倒せるかしら？

今、この子の攻撃力は3100ポイント。

しかも、エクシーズ素材を2つ取り除けば

このカードはそのターン、戦闘及びカード効果では破壊されない！」

遊泳「5000ポイントだろうが10000ポイントだろうが、

俺とカードの絆の力があれば、

そんなの軽く超えられるぜ！俺のターン！」

つ ペンギン・サポーター

遊泳「よし！ ペンギン・サポーター を召喚！」

ATK 100 LV 1

遊泳「レベル1 ペンギン・サポーター と、レベル4 ミラー・ペンギン に、

レベル2 リング・ペンギン をチューニング！

遙か彼方の希望の戦士、

堅い希望を手に今、覚醒せよ！シンクロ召喚！

諦めない不屈の心を持つ戦士！ ペンギン・リベンジャー



！」

ATK 2800 LV 7

遊泳「リング・ペンギン の効果！シンクロ素材として墓地へ送られたとき、

相手フィールドの、攻撃力が1番低いモンスター1体を破壊する！」

天子「無駄よ！エクシーズ素材を2つ取り除き、カード効果による破壊を無効にする！」

OV 3 - 2 Ⅱ 1

遊泳「ふ・・・俺の狙いはそれじゃない。このカードの攻撃力さ！俺のライフが相手より低い場合、その差の半分の数値分、このカードの攻撃力がエンドフェイズまでアップする！」

天子「ええっ！？」

ペンギン・リベンジャー ATK 2800 +1550 Ⅱ  
4350

天子「けど、このカードはこのターン破壊されない！」

遊泳「ペンギン・サポーター の効果。

「ペンギン」と名のつくシンクロ素材として墓地へ送られたとき、または

「ペンギン」と名のつくモンスターエクシーズのオーバーレイユニットとなったとき、カードを1枚ドロ-

する！」

天子「・・・！」

遊泳（このドローに、すべてがかかっている・・・。

このターンで決着がつかないたら逆転されるだろう・・・

。

カードたちよ・・・俺はお前達を信じる・・・

俺の声に・・・・・・・・応えてくれ・・・・・・・・！！）

遊泳「ドロー！」

つ　ゼロ・ペンギン

遊泳は笑った。

遊泳「来たか……。魔法カード　ペンギン・バーサック　を發動！

自分フィールドにペンギンモンスター1体しかカードが存在せず、俺のライフが1000以下のとき、手札をすべて捨てて発動できる！

そのモンスターの元々の攻撃力は0になる。」

ペンギン・リベンジャー	ATK	4350	1550
-------------	-----	------	------

遊泳「こいつはペンギンモンスター以外のカードが出るまで、

最大5枚までカードをドロし、墓地へ捨てる。  
そしてその数が、ペンギンモンスター1体の攻撃回数となる！」

天子「でもこれで攻撃力は落ちた！  
もう ヘブンス・アスタロート を倒せる攻撃力じゃない！」

遊泳「どうかな。俺が捨てたカード、なんだと思う？」

天子「え！？」

遊泳「ゼロ・ペンギン は、墓地に存在する限り1度だけ発動できる効果がある。

元々の攻撃力が0のモンスターがフィールドにいるとき、  
そのモンスターの今の攻撃力分、相手モンスターの攻撃力を  
エンドフェイズまで下げるのさ！」

天子「そんな！反則でしょ！」

遊泳「これはコンボ前提で多少扱いにくいだろ。  
お前のその化け物と一緒にしないでくれ。」

天子「ばっ・・・化け物って言うなああっ！！」

ヘブンス・アスタロート

ATK 3100 - 1550 〃 1550

遊泳「これで攻撃力は互角。後は墓地へ送るカード次第。  
このカードは1ターンに1度、戦闘では破壊されない。」

天子「攻撃力は互角・・・だけど、このカードは  
このターン永遠に破壊されない！倒せるはずがないわ！」

遊泳「まあ見てろよ。俺のカードたちの結束を！」

遊泳はカードを引く。

遊泳「1枚目！ ペンギン・アーチャー！」

遊泳「2枚目！ チューン・ペンギン！」

遊泳「3枚目！ ペンギン・ナイトメア！」

遊泳「4枚目！ トビペンギン！」

天子「うそおっ!？」

遊泳「いくぜ・・・これが俺の希望だ！」

遊泳は勢いよくカードを引く。

遊泳「5枚目！ ペンギン・ソルジャー！」

天子「ふふつ。5回連続でペンギンちゃんを引いたのは褒めてあげるわ！」

（主人公補正というチート使ったのは吞めないけど。）  
だけど、攻撃力は互角のまま！私の勝ちね！」

遊泳「いや、勝利の女神は俺に微笑んだぜ！」

ペンギン・リベンジ は、バトルフェイズに  
このカードを墓地へ送ることで、  
エンドフェイズまでペンギンモンスター1体の攻撃力を

このカードに乗っていたPカウンターの数×100ポイントアップする！

天子「はうう！？」

ペンギン・リベンジャー ATK 1550 +400 〃 1  
950

遊泳「行くぜ！バトルだ！」

ペンギン・ホープ・ナックル、ダイイチダア第一打！！」

天子「きゃあっ！」

天子 LP 3500 -400 〃 3100  
ヘブンズ・アスタロート ATK 1550 -400 〃 1  
150

遊泳「ペンギン・ホープ・ナックル、ダイニダア第二打！！」

天子「うわあっ！」

LP	3100	- 800		2300
ATK	1150	- 800		350

遊泳「ペンギン・ホープ・ナックル、ダイサンダー第三打！！」

天子「うえええんっ！！」

LP	2300	- 1600		700
ATK	350	- 1600		0

遊泳「ペンギン・ホープ・ナックル、ダイヨンダー第四打！！」

天子「きゃああああっ！！」

LP	700	- 1950		0
----	-----	--------	--	---

天子「うえゝん・・・負けちゃったあ・・・。」

遊泳「最後の攻撃！ペンギン・ホープ・ナックル、ダイゴダー第五打ア！！  
！！！！」

天子「うええっ！？・・・うつ・・・うわああああああっ  
！！！！」

LP	0	- 1950		0
----	---	--------	--	---

LP	- 3200
----	--------



W  
I  
N  
  
Y  
u  
e  
i

遊泳「おっしゃあ！勝ったぜ！」

部員 A 「ひつ．．．酷いなあ．．．。」

部員E「なんというオーバーキル。」

[illegible]

天子「遊泳。ありがとう、楽しかったわ。」

オーバーキルが酷かったけど。」

「遊泳、悪いな。ついテンションが上がっちゃって。」

部員E（誰だよあのチートカード創造したの。）

遊泳「でも、この部には強い奴がまだまだたくさんいる……」

俺もこれ以上ワクワクしたことなんてなかった・・・！

みんな！これからよろしくな！俺といっぱいデュエルし

「ようぜ！」

天子達「おーーーーっ！！！！！」

部員A「じゃあ、まずは僕とデュエルしてください！」

部員E「おい待てよ！俺からだ！」

遊泳「ふう。やれやれだな……。」

天子「うん……。」

遊泳「ところで、裂夜つて奴だけど……。」

あいつは何者なんだ？世界最強とか言ってたが……。」

天子「……まずはあいつとデュエルする前に、

誰か実験台を用意しなきゃ……。」

遊泳「実験台？」

天子「誰か適当に先生を探して、あいつとデュエルさせる……。」

それを遊泳が観察する……。一度あいつのデュエルを  
見てみるといいわ……。」

遊泳「……わかった。誰か探してくるよ。」

天子「うん。私は裂夜を探すわ。」

二人はその場で別れた。

「遊泳「裂夜」……か……そんなにやばい奴なのか……？」

寮

裂夜「……デッキはやっぱりこいつに限るな……」

俺の一番頼れるデッキ……。今日も頼むぜ……。相棒……

•  
○  
L

エンディング  
||  
||  
||  
||  
||  
||  
||  
||  
||

## 次回予告

遊泳「学園、世界最強といわれるデュエリスト、霸道 裂夜。

あいつはあらゆるデッキを使いこなし、

さまざまなデュエリストを圧倒してきた。

俺は今、あいつの驚異的な実力を目にする……。」

次回      T U R N    0 4 「強敵登場    M r . W    V S    裂  
夜」

遊泳「先生・・・裂夜って奴はいつたいどんな奴なんだ・・・！  
」

## 今回の最強カード

天子「さーて！今回の最強カードはこの子っ！

ヘブンス・アスタロート だよっ！

攻撃力、守備力は0だけど、自分のライフが相手のライフ  
より上なら、

その数値分アップするよっ！

しかも、強力な効果が2つもあるんだ！」

テキスト

ヘブンス・アスタロート

エクシーズ・効果モンスター

ランク2 / 光属性 / 天使族 / 攻 0 / 守 0

レベル2モンスター2体以上

このカードのエクシーズ召喚に成功したとき、

自分はエクシーズ素材となったモンスターの数×500ポイント

ライフを回復する。このカードの攻撃力、守備力は

自分のライフポイントが相手のライフポイントを超えている

数値分アップする。

1ターンに1度、このカードのエクシーズ素材を

任意の個数取り除くことで以下の効果を発動する。

1個：相手が発動した罠カードの効果を無効にし、

自分はライフを300ポイント回復する。

2個：このターン、このカードは戦闘及び、カードの効果では破壊されない。

TURN 04「強敵登場 Mr・W VS 裂夜」

遊戯王 Eternal Bonds

TURN 04「強敵登場 Mr・W VS 裂夜」

～寮～

裂夜「・・・。」

裂夜は考え事をしながらデッキを確認する。

裂夜「あの1枚のカードから、俺の人生が変わった・・・。」

裂夜「1枚のカードが引き起こしたといわれるあの事故……。」

裂夜「俺はデュエルに対する何かを忘れてしまったような気がする……。」

裂夜「だが思い出すときは近いかもしれない……。」

裂夜「そして俺の左目の傷……。  
あの借りはいつか必ず返す……！」

裂夜はデッキの確認が終わると、部屋から出て行った。

[illegible]

CM（内容は  
各自のイメージにお任せします。）



タイトルコール

遊泳「ペンギン・ウォリアー でダイレクトアタック！」

稲見「うわあっ！」

稲見 LP 300 - 2100 〃 0

WIN Y ue i

遊泳はいつもどおり、デュエルタイムを満喫中である。  
彼は何人ものデュエリストを相手に、引けをとらない。

稲見「さすが遊泳・・・完敗だよ・・・。」

遊泳「いや、お前もなかなか強かったぜ、稲見。」

稲見「ど・・・どうも・・・。」

ああ、こいつは 稲見<sup>いなみ</sup> 流矢<sup>りゅうや</sup>。

前回は部員Cとして登場した人物だ。

天子「遊泳、いる？」

遊泳「ああ。この通り連続デュエルタイムさ。今は7戦7勝0敗。」

天子「へえ。今のところ無敗なのね。」

だけど、裂夜とデュエルするときはそうはいかないかもね。」

遊泳「大丈夫だ。こいつら全員倒して、裂夜つてやつにも勝つてやるぜ！」

天子「ふふつ。気合入ってるね。」

遊泳「ところで、何の用だよ？」

天子「実験台、見つかったの？」

遊泳「ああ、面倒だから俺が直々に奴を倒しに行く。」

遊泳は気合で答える。

天子「だっ……だめよ……！デュエルするなら

まずは実験台を出さないと……！」

Mr・W「ん？何か楽しい話でもしてるのかい？」

Mr・Wが話割り込んできた。ナイスタイミング！

天子「えゝ、あ．．．えと．．．」

遊泳「ちよつと先生にお願いがあるんです。」

Mr・W「ん？なにかななにかな？」

遊泳は合掌しながら．．．

遊泳「実験台になつてください。」

Mr・Wは返す言葉がない。

Mr・W「実験台？何のことだ？まるで意味がわからんぞ！」

遊泳と天子はMr・Wに詳しいことを説明した。

Mr・W「うゝむ、遊泳君に裂夜君のデュエルを見せたいと？

まあ、僕でよかつたらいいけど．．．．．、

期待しないほうがいいよ。簡単に決着がついちやうから。」

遊泳「いえいえ！引き受けてくれれば結構ですよ！

それでは先生！お願いしますすぜ！」

天子「よかったね、遊泳。あのまま先生が見つからなかったら  
少々面倒なことになってたからね。」

遊泳「まさかとは思うが、俺があいつに負けるなんて思ってない  
よな？」

天子「そつ・・・そんなことないよ！遊泳は強いから！  
でも・・・油断は・・・禁物つてこと・・・。」

遊泳「・・・心配してくれてありがとう。  
大丈夫だ。俺は絶対に勝つぜ！」

そう言つて遊泳は笑う。

天子「う・・・うん・・・。ごめんね。変な事言つて・・・。」

裂夜「先生・・・俺にいったい何の用だ？」

天子「ああー！ーっ！！」

裂夜がいつの間にか現れて、天子は驚く。

天子「ちよつとあんた！今までどこにいたのよ！探してたのよ！」

裂夜「ふうん？よくわからんが、ご苦労さん。」

天子「くうっ……むかつく……！」

遊泳「え……もしかしてこいつが……。」

裂夜「ああ。俺が霸道　裂夜だ。」

長い空色の髪、そして左目に傷。まさに裂夜本人だ。

裂夜「何の用かといっても、ここに来たからにはデュエルしかないよな。」

天銀　遊泳……お前のことは噂でも聞いている。  
もう俺と決着をつける覚悟は決まったのか？」

遊泳「いや、今回は試合観戦だ。」

お前のデュエルから学べるものがあるかもしれないからな。」

裂夜「デッキの内容だろ？」

すでに趣旨見抜かれているようだ。

そもそも学ぶものなどデッキ内容、戦略などくらいしかないだろう。

裂夜「まあ、観察したいなら勝手にすればいいさ。

それでも、俺はお前に勝つ。そのつもりでいてくれよ。」

遊泳「楽しみにしてるぜ。裂夜。」

裂夜「ふっ・・・お前が試合観戦して戦略の分析を考えるととはな・

・

俺と同じデュエルバカとしては賢明な考えだな。」

天子「うっん、考えたのは私なの。」

裂夜「なんだ、お前か。お前の言葉にはがっかりさせる以外の

何物でもないな・・・。」

天子「ぐぐ・・・今ここでリアルファイトで決着つけていいかしら!？」

遊泳「待て待て待て、そこはデュエルで決着つけるよ・・・

とは言ってもこいつの実力は相当やばいって言うてたな・

・。

」

裂夜「遊泳・・・俺の実力・・・ここで思い知るといい・・・。」

Mr・W「おーい!もうデュエルの準備ができたよー!」

裂夜「さて、お前らも俺のデュエルを見て戦略を分析するといい。

尤も、できたところで俺に勝てるわけがないだろうな。

特に、えー・・・名前・・・なんだっけな・・・。」

天子「むかつく・・・マジでむかつく・・・!!」

先生!!こんな奴、さっさと倒しちゃってください!!」

Mr・W「あはは・・・まあ、がんばるよ。」

遊泳「さて、デュエリスト観察といこうか。」

裂夜（本物の遊泳を見て感じた・・・

こいつとなら・・・俺の求めるデュエルが  
できるかもしれない・・・。）

Mr・W「うん!お互いがんばろうね!」

裂夜「・・・。」

裂夜、Mr・W「デュエル!!」

Mr・W「僕のターン！ドロー！  
ハリマンボウを召喚！」

ATK 1500 LV 3

Mr・W「カードを2枚伏せてターンエンドだよ！」

遊泳（いよいよあいつのターンだ・・・いったい何を  
仕掛けてくるんだ・・・？）

裂夜「俺のターン、ドロー・・・ターンエンド。」

遊泳「！？」

遊泳は驚くべき行動に驚く。

ただカードをドローしただけでターンを終了したのである。  
しかし、周りの人は驚かない。彼のやることを知っているからだ。

天子「あいつ、またこんな挑発行為を・・・最低な奴ね！」

遊泳「挑発って・・・？」



天子「ハンデとして自分のライフをわざと削らせるのよ！」

遊泳「まあ、あいつはそれほどのデュエリストってことだ。

最低って言うより最高じゃないか。」

天子「ま、まあ遊泳がそういうなら・・・。」

天子はおそらく嫉妬していた。

Mr・W「またハンデデュエルかい？やれやれ、今までのように勝てるだなんて思っちゃだめだよ？  
僕のターン！ドロー！」

ビッグ・ジョーズ を召喚！」

ATK 1800 LV 3

Mr・W「そして速攻魔法 ウォーター・ウェーブ！」

手札からレベル4以下の水属性モンスター1体を特殊召喚する！

出ておいで！ キラー・ラブカ！」

ATK 700 LV 3

天子「これで攻撃力の合計がちょうど4000！」

見たか裂夜！馬鹿にしたらその分恥をかくってことを  
思い知ったか！」

裂夜「その台詞は俺が負けてから言うんだな。」

裂夜は「ふっ・・・」と笑って天子を挑発する。

天子「きいーっ！あつたまきた！先生！早く殺っちゃってくだ  
さいっ！」

Mr・W「ビッグ・ジョーズでダイレクトアタック！」

ガブッ！！

裂夜「・・・。」

裂夜	LP	4000	-1800		2200
----	----	------	-------	--	------

しかし、裂夜はこのダメージでも動じず、

むしろ、笑いが強くなっていく。

まるでこのターンを凌ぐ自信でもあるかのような。

裂夜「冥府の使者 ゴーズ を特殊召喚。」

ATK	2700	LV	7
-----	------	----	---

遊泳「ゴーズは、自分フィールドにカードがないときに

相手からダメージを受けたときに手札から特殊召喚できる・

・・・。

あいつ・・・ガチデツキ使いなのか・・・？

そうだとしたら最強といわれても不思議ではない。」

Mr・K「いいえ、ガチ要素を加えただけですよ。」

遊泳「うおっ！？」

Mr・K「彼は何度もガチデッキを使い、大会で優勝したことがありました。」

そこで彼はいろいろなデッキを使って優勝したいと、  
何度も優秀な記録を残していききました。  
そこに彼が敗れた記録はほとんどない……。」

遊泳「な……。」

Mr・K「今はガチ要素を混ぜた、自分らしいデッキを使っているのです……。」

Mr・K（ただ力を追い求めていくデッキを……。）

裂夜「戦闘ダメージを受けて特殊召喚に成功したとき、

カイエントークンを特殊召喚する。」

冥府の使者    カイエントークン    A T K    1 8 0 0    L V    7

裂夜「こいつの攻撃力は受けた戦闘ダメージと同じになる。」

M r ・ W 「むむ・・・    ビッグ・ジョーズ    は戦闘を行ったとき、  
除外される・・・。

・・・レベル3の    ハリマンボウ    と    キラー・ラブカ  
をオーバーレイ！

エクシーズ召喚！    N O ・ 1 7    リバイス・ドラゴン    ！  
！」

A T K    2 0 0 0    R A N K    3    O V    2

M r ・ W 「1ターンに1度、オーバーレイユニットを1つ取り除  
き、

このカードの攻撃力を500ポイントアップさせるのさ！」

A T K    2 0 0 0    + 5 0 0    =    2 5 0 0

M r ・ W 「僕はこれでターンエンド！」

裂夜「ふ．．．相変わらずだな。その程度の攻撃力で

俺は止められないと、何度デュエルしたら

わかってくれることやら．．．．．」

裂夜は微笑する。

天子「あいつ．．．ホントむかつく．．．」

Mr・K「遊泳君も見てください。ここからが本当の戦いで  
すよ．．．。」

裂夜「ファイナルターン．．．」



裂夜「ゴーズとカイエンをリリースし、

ミスト・ゲイナー をアドバンス召喚。」

ATK 1500 LV 8

遊泳「何でだ！？あの攻撃力の高いモンスターを犠牲に！？」

裂夜「このカードがアドバンス召喚に成功したターン、

相手の罠カードの効果は

次の俺のターンのエンドフェイズまで無効となる。」

Mr・W「くっ・・・！」

グラヴィティ・バインド 超重力の網

聖なるバリア ミラーフォース

Mr・W（僕のカードが・・・！）

裂夜「そして魔法カード モンスターゲート。

自分フィールドのモンスターをリリースし、

デッキから通常召喚可能なモンスターが出るまでデッキからカードをめくり、

モンスターが出たら特殊召喚し、それ以外のカードは墓地へ送る。」

激流葬

闇の誘惑

強欲で謙虚な壺

裂夜「ふっ……引いたぜ…… スパイラル・デーモン ！！

ATK 1900 LV 4 チューナー

裂夜「魔法カード 未来破壊 。 自分の手札の枚数分、

俺のデッキからカードを墓地へ送る。

俺の手札は3枚……。」

アックス・ドラゴニユート

ネクロ・ガードナー

アフター・グロウ

裂夜「魔法カード 死者蘇生 。

アックス・ドラゴニユート を復活させる。」

ATK 2000 LV 4

遊泳「え？ゴーズは蘇生させないのかよ？」

裂夜「お前へのサービスだ。 特別に俺のデッキのエースを紹介してやるよ。」

アックス・ドラゴニユート に スパイラル・デーモン  
をチューニング！

力に飢えし龍よ、 更なる力を求め、 立ち塞ぐすべてのものを焼き払え！

シンクロ召喚！力の象徴！ バイス・カタストロフ・ドラ  
ゴン ！！！」

力を求める龍の執念が相手プレイヤーと観客に  
プレッシャーを与えるような殺気を放つ。



ATK 3000 LV 8

裂夜「罨カードを封じられているあんたには

もう逃げ道はない・・・。

装備魔法 巨大化 を発動。

バイス・カタストロフ・ドラゴン の攻撃力が倍となる

」！

ATK 3000 ×2 〓 6000

遊泳「攻撃力6000・・・！！」

裂夜「いけ、 バイス・カタストロフ・ドラゴン ・・・

リバイス・ドラゴンを焼き払え！！

デストラクション・ヘルファイア！！」

凄まじい炎が龍から放たれ、リバイス・ドラゴンが一撃で倒される。

しかも、そのダメージがプレイヤー自身や観客にも伝わるような激しさだった。

Mr・W「うわあああああっ！！！！！！」

Mr・W LP 4000 - 3500 〓 500

遊泳「だが・・・まだライフは残っている・・・！！」

Mr・W「いや、僕の負けだよ……。」

遊泳「え……。!？」

裂夜「バイス・カストロフ・ドラゴン がモンスターを破壊したとき、

相手ライフに800ポイントのダメージを与える……。」

遊泳「うつ……。嘘だろ!!？」

裂夜「ふ……。お疲れ様です……。先生……。」

さらに爆発が激しくなり、周りが見えなくなる。

遊泳「おわつ……。!？」

Mr・W「うわああああああああああああ!!!!」

Mr・W LP 500 - 800 Ⅱ 0

天子「宣言どおり……。勝っちゃった……。

むかつくけど……。認めるしかないのね……。」

遊泳「ああ……。あのモンスター……。なんてパワーだ……。」

裂夜「まだだ・・・俺の持つ力は・・・俺の求める力は・・・  
こんなものではない・・・遊泳、いずれ決着をつけ  
ようぜ。」

遊泳「・・・ああ。」

天子「遊泳・・・？」

遊泳は怯えているような顔だった。

天子「ねえ・・・もしかして・・・怖くなった？」

遊泳「まあ、あんなやばいモンスターを見せつけられたらなあ・・・」

でも、俺のワクワクの方が勝ってるぜ！」

天子「ふう・・・本当なのかなあ・・・」

Mr・W「ごめ〜ん、僕勝てなかったよ・・・」

天子「あ、いえ・・・私のほうこそ、

お願い事を押し付けてしまって・・・ごめんなさい・・・」

「

Mr・W「でも、裂夜君とのデュエルは久しぶりかな・・・。  
で、何か参考になることはなかった？」

遊泳「一瞬で決着がついたからな・・・

1ターンで倒しちゃったら何の面白みもないし、

戦略だって分析のための手がかりがないし・・・。」

M r・W「まあ、そう簡単には手の内を知ることはいくつかできないってことだよ。」

遊泳「まあ、そうですね。」

裂夜「・・・やはりこの学園のデュエリストだと、

俺の力が引き出せない・・・。俺に何か足りないものでもあるというのか・・・？

遊泳「・・・その答えはお前とのデュエルでしか

見つけることができないのかもな……。  
待っている……天銀 遊泳……。」

裂夜「考えて見ればあいつと俺はいろいろと共通点があるな。

デュエルが好きな点、めんどくさがりな点、

……他にもあいつと共通点でもあるのか……。」

「寮」

Mr・K「では、こちらがあなたの部屋です。

今夜はごゆっくりお休みください。」

遊泳「どうも。」

Mr・K「もし眠れないようでしたら怪談話で眠らせてあげますよ。」

それも永遠に眠らせることだってできますよ……?。」

遊泳「もちろん遠慮します。」

と言ってドアを閉めた。

遊泳「そういえば二人一部屋だっけな、誰と一緒に寝るんだ・・・？」

・・・あ。」

そのもう一人の人物を見て遊泳は  
自分達はまるで運命で結ばれているものだと感じた。

。裂夜「・・・また共通点ができたな。部屋が一緒という点が・・・」

遊泳「共通点か・・・。」

そう、彼の僚友は裂夜だったのである。

遊泳「ふっ・・・。どうだ？俺と今ここでデュエルするか？」

裂夜「それは無理だ。こんな夜遅くに騒いだら  
追い出されるぞ。」

遊泳「ちえっ・・・わかったよ。俺はもう寝る。」

裂夜「・・・ああ・・・わかった・・・。」

共通点・・・これから限りなく増えていくのかもしれない・・・。

もしかしたらあいつもあの事故と関わっているかもしれない・・・。

あの1枚のカードによって引き起こされた事故と・・・。



俺はいつか必ず・・・あいつらの敵を討ってやる・・・。

俺の両親と・・・そして、俺の仲間達の敵を・・・!!!

エンディング

||  
||  
||  
||  
||  
||  
||

## 次回予告

遊泳「俺の元に届いた一通の手紙、

それはある人物からの果たし状だった。

そのころ、天子が行方不明となってしまう。

奴とデュエルすれば天子の行方がわかるかもしれない・・・  
そこに現れたある人物の正体は・・・意外な人物だった・・・

」。

次回     T U R N     0 5 「火力MAX     フルバーンデッキ

射出」

遊泳「待っている天子・・・今こいつを倒して、お前を助け出す  
！！」

## 今回の最強カード

裂夜「ふっ・・・今回の最強カードはこいつだ。

バイス・カタストロフ・ドラゴン・・・

攻撃力3000、守備力2600・・・圧倒的な能力を持つドラゴンだ。

お前はこの圧倒的な攻撃力を誇るドラゴンに勝てるか？」

## テキスト

バイス・カタストロフ・ドラゴン

シンクロ・効果モンスター

星8/闇属性/ドラゴン族/攻3000/守2600  
チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功したとき、

自分フィールド上に表側表示で存在する闇属性モンスター1体を  
選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装備し、  
そのモンスターの効果を得ることができる。

このカードが戦闘、または効果によって

モンスターを破壊した場合、相手ライフに

800ポイントダメージを与える。

また、このカードが破壊される場合、

代わりにこのカードの効果で装備したモンスターを破壊することができる。

TURN 05「火力MAX フルバーンデッキ射出」

遊戯王 Eternal Bonds

TURN 05「火力MAX フルバーンデッキ射出」

〈寮〉

遊泳「……ん……。」「

気がつくと時計の針は7時を指している。

遊泳「……そうか……。今俺はデュエルアカデミアの寮で暮らすことになってたんだ……。」「

遊泳はそう呟き、ベッドから降りる。  
下のベッドを見てみると、そこに裂夜の姿はなかった。

遊泳「あいつ、もう学校に行ったのか・・・ん？」

裂夜の机には書類が散らばっている。

遊泳「まさかとは思うが成績表とかじゃないだろうな・・・？」

そこには遊泳の言うとおり、成績表と書かれていた。

。遊泳「悪いな裂夜・・・お前の成績・・・見させてもらっぜ・・・」

ペラリ

「はずれ」

遊泳「何じゃこりゃあああああああ！……！！！」

隣の寮の人「んゝうるさいなあ……静かにしてくれ……。」

遊泳「サーセン。」

遊泳「そういえばカインの奴……」

全然連絡が来ないな……。何やってるんだ……。？」

くその頃、学園内では……。く

生徒A「ええっ！？天子さんが欠席！？」

教師「ええ。しかも連絡をしようとしても、出ないの。」

生徒B「そんなぁ……。」

生徒A「心配だな……熱なのかな……？」

生徒C「ねえ、裂夜君はあの子のこと、心配じゃないの？」

裂夜「ふ、心配するまでもないだろう。

あいつは他人の心配を裏切って、  
いつか普通に登校してくるだろうよ。」

生徒D「まあ、お前らしいな。」

裂夜（……あいつのことだ。授業サボるような奴でもあるまい  
し……。）

く???く

一方とある場所では天子と謎の人物が……

天子「うわ・・・ここどこなの・・・。」

???「特にどういところでもない。」

辺りは人気もなく、廃墟のようなところだ。

ここは今では営業していない店の中。

まだ撤去工事は進んでいない。

この謎の人物は、D・ホイールのヘルメットを被っており、素顔を見ることはできない。

天子「ねえ、あんた誰よ？学園の生徒じゃないみたいだけど・・・。」

???「・・・。」

天子「あのさ、聞いてる？誰なの？」

???「あいつが来るまで教えるわけにはいかないな。」

天子「え？」



「天銀 遊泳が来るまで……な……。」

オーピング

CM（内容は  
各自のイメージにお任せします。）

タイトルコール

遊泳はいつも通り、デュエルリング・・・デュエル部の部室にいた。

しかし、他の部員は授業中なので、ここには遊泳一人しかない。  
さすがに遊泳一人では暇なので、  
教頭先生、Mr.Kがデュエルロイドを貸してくれた。  
デュエルロイドとは海馬コーポレーションが開発した  
デュエリストのロボットである。

完璧な判断力、計算力を誇っていて、後はデッキをセットすれば

いつでもデュエルができる。

しかも、レベル調整ができるので初心者も安心。すぐに楽しくデュエルができる優れものなのだ。

問題は価格。数十万は普通にする。

しかし、ここはデュエルアカデミア。

なんと無償で10台も支給してくれたのだ。感謝感謝。

社長曰く、「ふうん、こんなデュエリストでよければ何台でも貸してやる。」とのこと。

そこで遊泳は、同じペンギンデッキをデュエルロイドにセットしてデュエルしてみると……。

遊泳 LP 600

デュエルロイド LP 1400

遊泳「すげえ、俺のペンギンデッキまでこんなに使いこなすなんて……！」

遊泳のフィールドにはモンスターが存在せず、伏せカード、手札が1枚。

一方、デュエルロイドのフィールドには

ペンギン・ガードナー DEF 1900 と

ペンギン・ファイター ATK 2600 が存在し、

伏せカード、手札は0枚。

遊泳「こんなに俺のデッキがうまく使えるなんて流石だな。

だが、真のペンギンデッキ使いは俺だぜ！

俺のターン！ チューン・ペンギン を召喚！」

ATK 500 LV 3 チューナー

遊泳「こいつが召喚に成功したとき、

墓地のレベル3以下のペンギンモンスター1体を特殊召喚  
でき、

1ターンに1度、ペンギンモンスターのレベルを  
1つ変化させることができる！

ペンギン・リクルーター を特殊召喚！」

ATK 1300 LV 3 - 1 Ⅱ 2

遊泳「レベル2 ペンギン・リクルーター に、レベル3 チュ  
ーン・ペンギン を

チューニング！！遙か彼方の大地の戦士よ・・・正義の叫  
びとともにその姿を現せ！

シンクロ召喚！現れる！ ペンギン・ウォリアー ！！！」

ATK 1900 LV 5

遊泳「このカードの攻撃力は、

俺の場のペンギンモンスターの数×200ポイントアップ  
する！」

ATK 1900 + 200 Ⅱ 2100

遊泳「トラップ発動！ ペンギン・ブラスト！

俺のライフが相手のライフより低い場合、

手札1枚を捨てて発動できる！

エンドフェイズまでペンギンモンスター1体の攻撃力は

800ポイントアップし、戦闘でモンスターを破壊して墓

地へ送ったとき、

その攻撃力の半分のダメージを相手に与える！」

ATK 2100 + 800 = 2900

遊泳「行け！ ペンギン・ウォリアー！ ペンタレス・ブレード

！！」

デュエルロイド「ライフポイントマイナス数値、

合計1600ポイント。私のライフが0になり

ました。

おめでとうございます。あなたの勝ちです。」

デュエルロイド LP 1400 - 300 - 1300 = 0

WIN Y ue i

遊泳「ふう。俺のペンギン達は今日も輝いてるぜ！」

そう誇らしげな遊泳にある生徒が駆け寄ってくる。

生徒D「たつたたつ 大変大変大変・・・たい・・・  
へっ・・・変態だよ遊泳!!」

遊泳「まずは落ち着いたらどうだ？」

その生徒を落ち着かせるため、深呼吸するように促す。  
そして2分くらいしてようやく落ち着いたようだ。

遊泳「何？俺に手紙？誰からだよ？」

生徒D「誰からかはわからない。少し覗いてみたんだけど内容が・  
・・。」

遊泳「な・・・なんだよこれ・・・果たし状・・・!？」

生徒D「しかも、天子さんはそいつが連れ出したとか・・・。」

遊泳「旧サテライト地区の広場で待つ。」

来なければ天子の命はない・・・だと・・・!？  
・・・だが、これが罠だったら・・・。  
それに、少しデッキの見直しもしたいし・・・。」

遊泳は少し戸惑う。

生徒D「じゃあ、まずは僕が行く！遊泳はデッキの調整が  
終わったら早くきて!」

遊泳「ああ。わかった。」

そして生徒Dは走って出て行った。

〈30分後〉

〈旧サテライト広場〉

生徒D「・・・ここか・・・。」

???「なんだ、遊泳じゃないのか。」

生徒D「お前は・・・!？」

???「おっと、悪いが遊泳が来るまではこのヘルメットははずさないぜ?」

生徒D「じゃあ、僕がお前を倒す!すぐに天子さんを返してもら  
うよ!」

???「やれるもんならな・・・。」

〈広場より少し離れた場所〉

遊泳「なに？奴とデュエルだと！？」

生徒D「僕に任せて！遊泳は天子さんを！」

そして、あつちは通信の電源を切った。

遊泳「とはいってもどこに……とりあえずデュエルでも見に行くか。」

それがいいかもしれない……。」

〽1分後の広場〽

遊泳「やっと着いた……デュエルはどうなっているんだ……！？」

????「ああ。俺の勝ちだ。」

遊泳「早っ！！」

デュエルが始まってから1分もせずに決着がついてしまった。しかもライフ4000対0で彼の圧勝だった。

生徒D「ごめんなさい……。僕が役立たずで……。」

遊泳「いや、よくやってくれた・・・。

後はお前が天子を・・・。」

生徒D「まさか、遊泳・・・!!」

遊泳「大丈夫だ。こいつは俺がぶっ倒す・・・。

天子を連れ去った奴を・・・俺は許さない・・・!」

???「ああ、あいつか。お前らのすぐ後ろにいるぜ?」

遊泳「は?」

二人は後ろを向くと、そこには天子がいた。

天子「ああ、遊泳。やっぱり助けに来てくれたんだね。」

遊泳「どういう・・・ことだ・・・!?」

???「ところで遊泳。俺の正体だが・・・。」

遊泳「天子・・・無事でよかったぜ・・・。怪我はないか?」

天子「うん、大丈夫。」

生徒D「これでめでたしめでたし。さ、帰ろうか。」

???「おいお前ら!無視するんじゃないよ!」



遊泳「いやあ、こいつが帰ってきたらあとは何もすることがないし。」

???「あるだろ、お前には。」

すると謎の人物がデュエルディスクを構えた。

遊泳「デュエルをするってのか・・・？」

???「ああ。デュエルが終わらなければ、俺の目的は果たせないからな。」

遊泳「目的？そもそもお前はいつたい・・・。」

???「そうだな、そろそろこいつでも外すか。」

謎の人物がヘルメットを外した。

遊泳「・・・お前・・・カイン!!」

天子「そう。彼はあなたの親友カイン・・・。」

カイン「よつ。久しぶりだな。」

遊泳「久しぶりだな。じゃねえよ！なんなんだよこれは！

お前、何するつもりだったんだよ!」

カイン「おい、説明してやってくれ。

このまま悪者扱いされても困るしな。」

天子「ああ、あれはただのお芝居なの。

遊泳を誘うためのね。」

遊泳「し……芝居……だと……?」

遊泳と生徒Dは「まるで意味が分からんぞ!」というような顔をしている。

カイン「いやあ、俺がここまでするとお前がどこまで本気に

なるのになって思ってたこのシナリオを思いついたのさ。

お前の彼女がいきなり連れ出されたらどうなるかってさ。

」

天子「か……彼女……って……。」

天子はいきなり顔を赤くする。

遊泳「そっぴゃお前、デッキ完成したの?」

カイン「まあな、こんな奴2ターン目で倒しちゃったよ。」





ドローし、

との

そのカードがモンスターならそのレベル×200ポイン

ダメージを相手に与える！それ以外なら

俺は500ポイントのダメージを受ける。」

遊泳「なんだ、運試しか？」

カイン「ドロー！俺が引いたのは 時械神メタイオン レベル1  
0！」

遊泳「は！！！？？」

リローダーから10発の弾丸が放たれる。

遊泳「ぐああ！！！」

遊泳 LP 4000 - 2000 〃 2000

カイン「どうした？火力ならいっぱい装填されてるぜ？」

遊泳「く・・・あいつもこいつにやられたのか・・・。」

カイン「俺はこれでターンエンドだな。」

遊泳「これじゃあ次のターン、本当にやられちまうかもな・・・。

だが諦めるわけには・・・俺のターン！」

遊泳はこの引きにすべてを託す。

カイン「無駄だ！トラップ発動！仕込みマシンガン を3枚発動！

相手の手札と相手のフィールドのカードの枚数×200ポイントのダメージを相手に与える！」

生徒D「遊泳の手札の枚数は6枚・・・発動した 仕込みマシンガン は3枚、

だから合計3600ポイントのダメージが・・・！！」

カイン「終わりだな！遊泳！」

遊泳「いや、 ミラー・ペンギン が手札にいるから終わりじゃないぜ！」

カイン「なに！？そのカードは・・・！」

遊泳「手札の ミラー・ペンギン は、相手が効果ダメージを生させる

カードを発動したとき、手札から特殊召喚ができる。

そして、このカードが場にある限り、俺が受ける効果ダメージは半分になり、

受けたダメージ分、相手にもダメージを与える！」

DEF 2000 LV 4

マシンガンの爆風がカインにも襲い掛かる。

遊泳	LP	2000	-1800	〃	200
カイン	LP	4000	-1800	〃	2200

カイン「ぐつ・・・だがお前の残りライフは2000！

火の粉 を出されると負ける程度のライフしか残っていない！」

遊泳「 ペンギン・ヒーラー を召喚！」

ATK 1600 LV 4

遊泳「1ターンに1度、手札1枚を捨て、自分フィールドのペンギンモンスターの

数×600ポイント、自分のライフを回復できる！」

つ ペンギン・リフレクター

遊泳 LP 200 +1200 〃 1400

カイン「ライフを回復しても、俺の手元の火力だけでもお前を倒すのには充分だ！」

遊泳「装備魔法 ペンギン・ソード を ペンギン・ヒーラーに装備！

攻撃力を700ポイントアップさせる！」

ATK 1600 +700 〃 2300

遊泳「バトル！ ペンギン・ヒーラー で

インフェルニティ・リローダー を攻撃！」

カイン「馬鹿め・・・トラップ発動！ 魔法の筒！

相手モンスターの攻撃を無効にし、その  
攻撃力を相手に跳ね返す！これでお前のライフはゼロだ

」！

ペンギン・ヒーラー の攻撃が筒の中に入り、  
もう片方の筒からその魔力が放たれる。

生徒D「ゆ・・・遊泳！！」

遊泳「速攻魔法発動！ ペンギン・エスケープ！

俺のフィールドの

ペンギンモンスター1体をエンドフェイズまで  
ゲームから除外する！」

ペンギン・ヒーラー の足元に魔法陣が出現し、  
ペンギン・ヒーラー を異空間へ飛ばす。

カイン「ちっ・・・かわされたか・・・。」

遊泳「ペンギン・ソード が墓地へ送られたとき、

デッキの1番上を確認し、それがペンギンモンスターなら  
特殊召喚できる。それ以外ならそのカードをデッキの一番

下へ戻す。」

つ 激流葬

遊泳「カードを2枚伏せてターンエンドだ。」



ペンギン・エスケープ の効果で除外された  
ペンギン・ヒーラー が光の中から戻ってきた。

遊泳 LP 1400

カイン LP 2200

カイン「俺のターン！ドロー！」

お前のフィールドのモンスター2体をリリースし、  
溶岩魔神ラヴァ・ゴーレム をアドバンス召喚！」

2体のペンギンモンスターのいる足元から溶岩が噴出し、  
遊泳を囲む檻が現れ、周りが溶岩でできたモンスターの  
身体に覆われる。

ATK 3000 LV 8

カイン「インフェルニティ・リローダー を守備表示にし、  
モンスター効果を発動させる！ドロー！」

つ 火炎地獄

カイン LP 2200 - 500 Ⅱ 1700

カイン「おと・・・それじゃあ、 火炎地獄 を発動！  
今のお前には ミラー・ペンギン がいないから  
ダメージは半減されないぜ！」

遊泳「カウンタートラップ ペンギン・エマージェンシーコール  
！」

効果ダメージが発生したとき、その効果を無効にし、  
墓地からレベル4以下のペンギンモンスター1体を  
効果を無効にして守備表示で特殊召喚する！  
現れる！ ペンギン・ヒーラー！」

DEF 800 LV 4

カイン「ちつ。ターンエンドだ。」

遊泳「そして畏発動！ ペンギン・チェンジ！  
自分のペンギンモンスター1体をリリースし、  
墓地から同名モンスター以外で同レベルの  
ペンギンモンスター1体を特殊召喚する！  
ミラー・ペンギン を墓地から特殊召喚！」

DEF 2000 LV 4

遊泳「俺のターン！ラヴァ・ゴーレムのダメージは半分となり、  
そのダメージはお前にも襲い掛かる！」

溶岩がフィールドを包み込む。

遊泳	LP	1400	- 500	〃	900
カイン	LP	1700	- 500	〃	1200

遊泳「バトル！ラヴァ・ゴーレムで攻撃！」

カイン「甘い！畏発動！ 聖なるバリア・ミラーフォース！」

遊泳「なっ！」

ラヴァ・ゴーレムが破壊され、遊泳を覆う檻も消えていく。

遊泳「・・・カードを1枚伏せてターンエンド。」

カイン「俺のターン！」

つ 停戦協定

カイン（このカードは発動時にフィールドの

効果モンスターの数×500ポイントのダメージを  
相手ライフに与えるカード・・・。）

インフェルニティ・リローダー の効果により  
カードを1枚ドロー！」

つ プロミネンス・ドラゴン

カイン「こいつはレベル4モンスターだ！

ダメージは半減するがな・・・。」

遊泳「ぐ・・・。」

遊泳 LP 900 - 400 〃 500

カイン LP 1200 - 400 〃 800

カイン（ 停戦協定 を伏せ、次の奴のターンに

発動させれば俺の勝ち・・・。）

カードをセット！」

遊泳「トラップ発動！ ペンギン・アイスアロー！

相手がカードをセットしたときに発動できる！  
ペンギンモンスター1体をリリースし、  
その伏せカードを破壊する！」

カイン「だが、まだターンエンドを宣言していない！  
プロミネンス・ドラゴン！」

ATK 1500 LV 4

カイン「こいつは俺のターンが終わるたびに  
相手に500ポイントのダメージを与える！  
あばよ、遊泳！」

火炎弾が遊泳に向かって放たれる。

遊泳「まだまだ！墓地の ペンギン・リフレクター の効果発動！  
デュエル中に1度、墓地のこのカードをゲームから除外す  
ることで、

そのターンの俺へのダメージをゼロにする！」

大きな氷の盾が遊泳の前に現れ、火炎弾から遊泳を守る。

カイン「・・・ターンエンド・・・。」

遊泳 LP 500

カイン LP 800

生徒D「やっぱり遊泳は強い・・・」

僕はすぐにやられたけど・・・遊泳はここまで・・・  
僕も・・・がんばらないと・・・。」

遊泳「行くぜ！俺のターンだ！」

つ　ペンギンの宝札

遊泳「よし、魔法発動　ペンギンの宝札　！」

墓地のペンギンモンスター2体をゲームから除外し、  
デッキからカードを2枚ドローする！」

ミラー・ペンギン

ペンギン・ヒーラー

遊泳「・・・引いたぜ・・・。」

カイン「・・・！？」

遊泳は見ての通り、（キャラの視点から見れば）笑っていた。

遊泳「速攻魔法発動！　ペンギン・リターン　！」

自分フィールドにモンスターが存在しないとき、  
ゲームから除外されているレベル4以下のペンギンモンス  
ターを1体

特殊召喚できる！　ペンギン・ヒーラー　を特殊召喚！」

ATK　1600　LV　4

遊泳「そして、　ペンギン・ランサー　を召喚！」

ATK　1600　LV　4

カイン「く・・・！」

遊泳「行け！2体のペンギンモンスターで攻撃！」

カイン「ぐわああああっ！！！」

カイン    LP    800    -100    -1600    〃    0

カイン「さすがだな・・・遊泳・・・。」

遊泳「カインだつてな・・・ははは・・・。」

カイン「くつ・・・はははははは・・・。」

遊泳「ははははははは・・・！」

そして学園までいっしょに戻り、

天子と生徒Dは授業中の外出により、廊下に立たされることになったらしい。

天子「ううゝカインなんか大っ嫌いっ！！！」

天子はマジ泣き状態だった。

カイン「あう・・・悪かったよ・・・天子・・・。」

遊泳「まあ、ここはこの俺に免じて許してやってくれよ。」

天子「でも納得はいかないのよね・・・。」

遊泳「確かに、わざわざそんなことしなくても

デュエルと聞いたらずくに駆けつけるのに。」

カイン「まあ、面白そうだからな。」

天子「それで私の成績がリリース（犠牲に）されたんですけど・・・。」

遊泳「大丈夫だ！お前のやる気をチューニングだ！！」

天子「・・・うんっ！ありがとっ！遊泳！」

遊泳「ふふ・・・。」

カインとこんなに笑うのは久しぶりだ。

特に、今日は天子といっしょだからな・・・。

もしかしたら、俺達でデュエルチームが結成できそうだった。

カイン「ああ、俺はもう戻らないと。」

遊泳「え？」

カイン「俺も、遊泳とデュエルしてさ、もっと強くなりたいと  
思っていたんだ。

もっと強くなってから、ここにまたいこうってな。」

遊泳「カイン・・・。」

カイン「というわけだ！今日はここまでにする。

じゃあな、これからもがんばれよ！」

遊泳「おう！」

カインと遊泳は共に手を握る。

天子「うーん・・・じゃあ私もっ！」

天子は手を遊泳とカインの手の上に置く。

天子「私たち・・・デュエルチームになっちゃうのかもね・・・。

」

遊泳「カイン・・・絶対に強くなって戻ってこいよ・・・！」

カイン「ああ、俺が戻ってきたら・・・

俺達でチームを結成しようぜ！」

三人「おおーっ！！！」



三人は同時に手を真上に上げる。

遊泳「チーム・・・か・・・楽しみだな・・・。」

〽校門〽

カイン「じゃあな、そろそろバスが来るからな。」

遊泳「お前も元気にやってくれよ・・・。」

カイン「ああ。じゃあな。」

カインは歩き出す。

遊泳「カイン・・・。」

天子「ふんっ・・・あんな奴とチームだなんてね・・・。」

遊泳「そんなに二人きりのほうがいいのか？」

天子「ば・・・ばっ・・・ちが・・・。」

天子は顔を赤くする。

天子「も．．．もう授業始まるから！じゃあねっ！！」

遊泳「あ．．．。」

天子は下駄箱へ疾走する。

遊泳「ふっ．．．ツンデレか．．．。」

．．．！

遊泳「っ！？」

．．．！

遊泳「．．．目が．．．。いったい何が．．．！？」

・  
・  
・  
!

どんどん左目の激痛が強くなってくる。

遊泳「これは・・・あの時と同じような痛・・・み・・・。」

バタツ・・・

[illegible]

## 次回予告

遊泳「カインとのデュエルの後、突然激痛が走り、倒れた俺。そこで俺は保健室に運ばれ、目が覚めた。そこに立っていたのは見知らぬ少女。この学園には制服が存在しないからこの学園の生徒かどうかはわからない。そして突如デュエルを申し込まれ、俺は奴とのデュエルを引き受ける。そしてまた……。」

次回  
TURN 06 「エレメントへキサス」

「遊泳「なああんた……いつたい何者なんだ……!？」」

## 今回の最強カード

遊泳「今回の最強カードはこれ。ペンギン・ランサーだ。攻撃力1600、守備力400。このカードは貫通能力を  
持っていて、

1ターンに1度、他のペンギンモンスターに

貫通効果を持たせることができるぞ！」

テキスト

ペンギン・ランサー

効果モンスター

星4 / 水属性 / 水族 / 攻1600 / 守 400

1ターンに1度、自分フィールド上に表側表示で存在する「ペンギン」と

名のついたモンスターの攻撃宣言時に発動できる。

そのモンスターが守備表示モンスターを攻撃したとき、

その守備力を攻撃力が超えていれば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

また、このカードが守備表示モンスターを攻撃したとき、

その守備力を攻撃力が超えていれば、

その数値だけ相手ライフに戦闘ダメージを与える。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6409z/>

---

遊戯王 Eternal Bonds

2011年12月31日23時51分発行